

チニソノ地ノ裁判所へ訴フルナリ  
佛ノ飛脚船ニテ現場サイゴンニテ訴訟ヲナ  
セリ然ルニソノ被告人ヲ呼出スニ佛國ヨリ  
呼出状ヲ送ルニアラヌ直チニソノ地ニテ呼  
出状ヲ送ルナリ

併シ被告人数人アルトキハ各地ノ人一ノ裁  
判所ニ揃ハサルヲ得サルトアリタトヘハ被  
告人ノ内一人巴里府ニアリ其餘人屬地又ハ  
外國ニアル時ハ原告人ノ撰ニヨリ巴里ニ府  
裁判所ニ訴出スソノ時ハ以條ヲ用ヒ海軍宰  
相又外務宰相へ送達シテ夫々其呼出状ヲ届  
ケシム

司法省

目下ホアソナード日本ニアリ被告人トナリ  
タルトキハ外務宰相ヨリ日本へ送達スルナ  
リ  
万一巴里人サイゴンへ遊ヒニ行キタルトキ  
巴里ニ家族アリソノ時ニモサイゴンへ呼出  
状ヲ送達スヘキヤ  
一時遊ヒニ行キタルトキハ巴里ノ住所へ送  
達ス尤モ親族朋友等ニテ猶豫ヲ願フナリ  
併シ至急ノトハ猶豫スベカラス代理アレハ  
代理又ハ朋友ニテ防クナリ  
万一事件ニヨリ本人ニアラサレハ能ハサル  
トアルトキハ猶豫ヲ願フナリ  
猶豫ヲ願ヒタリトモ原告人ニテ兼知セサル  
トアリ

然レトモ本人ノ未タ知ラサルトキハ欠席裁  
判スルヲ能ハス

日本ニ雇ハレタル等ニテ歸ルヲ能ハサルト  
キハ如何スベキヤ

代理ヲ立テ置クナリ

佛國テ於テハ一旦暇ヲ政府ヨリ受ケテ外國  
へ行キタルモノハ訴詔ノ為メニ歸國セヨト  
云フ權ハ無之但シソノ期限外ニ政府ノ替ハ  
リタルトキハ格別ナリトス

保シ刑事ニ於テハソノ政府へ呼ヒ戻シヲ頼  
ムヲアリ

ホアソナードハ官員ニテ三ヶ年間に日本ニ來  
ルモノユヘ三年内ハ呼ヒ返スヲ能ハス

司法省

平人ナレハ一生モ呼ヒ返スヲ能ハス

官員ハソノ限内歸ラサルモ自由ナリト虽片  
ソノ官ヲ失フ

三年ノ期限外更ニ滞留シナシ度トキハ本國  
政府へ願フナリ万一允許ナキトキハ官ヲ免  
セラレ度ト云フマテナリ

司法省

第十貳号

許詔法會議筆記

司法省

六月五日

第七十条 前二条ニ定メタル規則ニ循ハサルニ於テハソノ呼出状ノ効ナカルベシ  
過日來說キタル如ク呼出状ノ効ノアルトナキトニ付テハ正条中ニ効ナシト云ハサルモノハ効ナキモノトスルニアラサルナリ  
此条ニ於テ別段ニ効ナキヲ一條ニ立テタルモノハ元ヨリ前二条ノ毎項ニ入ルヘキモノナレバ餘リ繁雜ナルエヘ惣括シテ簡略ニシタルモノナリ  
呼出状ノ効ナキヲハ第六十一條第六十四條第六十五條第六十六條第六十八條第六十九條中ノ諸件欠ケタルトキナリ

司法省

祭日ニ出ス呼出状又ハ價ヲ記セサル呼出状ハ効ナキニハアラヌ過日說キタル通りナリ  
使吏ノ錯誤ニテ管轄違ヒノ裁判所へ呼出状ヲ以テ被告人ヲ呼出スヲアリ  
タトヘハ人權ニテ被告人住所ノ裁判所ニ呼出スベキヲ使吏ニテ取違へ物件所在ノ裁判所ニ呼出スヲアリ  
之等ハ取消トハナラス何トナレハソノ委細ノ一ハ裁判所ニアラサレハ知ルヲ得サレハナリソノ時ハ裁判官ニテ何レノ裁判所ニ出ツヘシト指示スヲモアリ又被告人ニテ自カラ此裁判所ニ出ツベキニアラヌト申述フルヲモアリ故ニ被告人ハ必ラス呼出サレタ

ル裁判所ニ一応出席セザルトテ得ス  
里数ノ距離又ハ呼出ノ期限ヲ間違ヘタルト  
モ亦取消トハナラス被告人ニテソノ間違ヒ  
ヲ申述ヘ相当ノ日ニ出ツヘシト届ケ置ク時  
ハ夫レニテ済ムナリ  
第七十一條第七十二條ハ過日説キタリ此ニ  
贅セス

第七十一條 使吏ノ過失ニテ呼出状ノ効ナキ  
ニ至リシ時ハ其使吏呼出状送達ノ謝金ヲ失ヒ  
及ヒ取消シトナリタル訴訟ノ費用ヲ償ヒ且其  
時ノ模様ニ因リ原告人ニソノ損害ノ償ヲナス  
ベシ

司法省

右ハ全ク使吏ノ過失ニ属スルトテ説ク此ノ  
過チハ元ト小ナルモノナレモ亦大ナルトモ  
アリ即チ過日説キタル使吏ノ罰金及ヒ罰レ  
スクリフシヨシノトヲ指シテ云フナリ

第七十二條 佛蘭西國內ニ住居スル者ニ付テ  
ハ呼出状ヲ送達シタルヨリ裁判所ニ出席スル  
ニ至ル迄ノ定期ヲ八日トス  
迅速ニ審判ヲナスベキ場合ニ於テハ裁判所ノ  
上席人原告人ノ別段ノ願ニ因リ定期ヨリモ更  
ニ速ニ被告人ヲ呼出スルヲ許ルスノ言渡ヲナ  
シ得ベシ

此条モ過日説キタリ前項ハ呼出ノ定期ヲ八  
日トスル迄ナリ後項ハ至急ノ時裁判官ノ許  
シヲ得ルヲ要スル迄ナリ

第七十三條 佛蘭西本國外ニ在ル者呼出ヲ受  
クル時ハソノ呼出ヲ受ケタルヨリ裁判所ニ出  
席スル至ル迄ノ期限左ノ如シ

遠方ニ居ルモノハ出席期限ノ延ビルヲ云  
フ

遠近ノ一ニ付テハ日本ニテハ此ノ裏区ニ  
法ヲ立ツルハ夫レニテ可ナリ

佛ノ遠キ所口ハ日本ノ近キ所口ナレハナリ  
第一「ユルス島」「アルセリ」「不列顛諸島」以太利

佛蘭西ニ隣接シタル國ニ在ル者ニ付テハ一月  
ノ時間

此ニ記スル所ノ地方ニ於テハ八日ノ代リニ  
一ヶ月ノ時間トス

司法省

普國ハ近時連邦トナリタリソノ國內ノ里數  
ヲ佛國ヨリ算スルトキハ極メテ近キ隣國ト  
比スレハ里程ノ遠キ所モアレモ佛ト隣邦ナ  
ル故ヲ以テ全國中都テ一ヶ月トス

若シ普ニテ「オ、ストリヤ」ヲ取り連邦トナサ  
ハタトヒソノ國廣大ナリト虽モ一邦トナル  
故ニソノ期限ヲ一ヶ月トスソノ中間ニ別國  
ナキエヘナリ

日本ヨリ云ハ、魯西亞モ亦一ヶ月トス可シ  
壤地隣接スレハナリ然レモ魯ハ大國ナリ其  
歐洲ニ接スル所マテハ太々遠シ其期ヲ述ヘ  
サルヲ得ス

元來此期限ノ立テ方ハ不都合ナリ隣接ノ國

ト云フモ皆近キ所ニアラス前項ノ通り隔遠ノ地方アリ

日本ヨリ亞米利加ハ仮令对岸ノ國ト虽モソノ間ニ大洋ヲ隔テタルユヘニ隣接ニアラス此項ニ「ゴルス」又ハ「英國等ヲ入レタルモノハ其同海アレモ接近ノ國ナレハナリ

抑此法律ノ例ニ循ヒ距離ヲ以テ立ツル件ハ公平ナルヘケレモソノ外國里數ニ至リテハ中々人々能ク知り得ルニアラス故ニ大略一ヶ月又ハ何ヶ月ト定メタルナリ

遠方ニアルモノ呼出ヲ受タル中「巴里等」ニソノ朋友アリテ事情ニヨリテハ日延ヲ願出ル「アリソ」ノ時ハ裁判官ニテ拒ム「モアレ」

司法省

大概ハ之レヲ評ス

一ヶ月ト記載スルハ被告人ノ手ニ呼出状ノ落タル日ヨリ起算スルユヘ実地差支ニハ成ラサルナリソノ三十日間ニハ名代ヲ出ストモ代書師ヲ雇フトモ充分ニ出来ル「ナリ」極メテ遠方ナレハ外務卿ヨリ送達シソノ属地ナレハ前ニ説キタル通り海軍卿ヨリ送達スル「故其送達」ハソノ被告人アル地ノ全權公使ニ達シ公使ヨリ國士ハ達シ國士ヨリソノ當人ニ渡ス「ナレハソノ送達」ニ不分明ナル「ナリ」

公使ニ送ル呼出状ハ即チ寫シナリ本書ハ通例裁判所ニアリ



今ホアソナート自カラ其送達ノ仕方ヲ考ヘ  
居ルナリソノ方宜シキト思フナリ

何レノ國何レノ村町ニテモ經律度中ニ總括  
セサル地方ハ之レナシソノ經度ニ付テ幾日

緯度ニ付テハ幾日ト起算スル法ナリ佛國ニ  
テ使吏ハ大抵度数位ハ知り居ルトニテ地圖

ヲ見テ直チニ算ヲ立ルト得ルベシ  
緯度一度ハ佛ニテ廿七八里ニナルナリ英ニ

テハ少シ寡ナカラシカ故ニ一緯度毎ニ二日  
ヲ増ストトナス經度モ亦然リ

佛國ニテ一アルロンヂスマンニ付キ八日ヲ  
此間名樹元ト間塔ツアリ傍人知ル能ハ元ト立テ

ソレヨリ一度ニ付テ三日トナシタラハ充分  
ナラン

三日トナセハ三日本ノ七厘半程ミリヤメトル毎ニ一日ノ  
割合ニ當ルナリ

日本ニ於テハ佛ト違ヒ未タ道路ノ便ナキ故  
別ニ猶豫ナカルベカラス

佛ニ於テモ右ヘハ三日本ノ七厘半程ミリヤメトルナリ今  
ハ五日本ノ七厘半程ミリヤメトルナリ千八百六十三年ノ

改正ナリ  
古ヘ訴訟法ヲ編成セシ頃ハ通信不便利ナリ

シ故ソノ里程ヲ短カク定メタリ今ハ鐵道縱  
横甚々便利ナルニヘニソノ里數ヲ増シタリ

凡ソ法律ハ開化ノ度ニ從ヒ變化スルモノニ  
テソノ進歩ノ度ニ忘シ時々改正セサルベカ

司法省

ラスタトへハ旅行ヲ徒歩ニテスル時代ハ一日三<sup>リ</sup>ミリヤメートルモ近トセサレモ鐵道ノ便用クレハ一日五<sup>リ</sup>ミリヤメートルモ遠シトセス若シ此後空船ニテ往来スルニ至ラハ一日十<sup>リ</sup>ミリヤメートルトシテモ可ナラシ

第二 其他歐羅巴又ハ地中海ノ濱岸又ハ黒海ノ濱岸ニ於ケル國ニ在ル者ニ付テハ二月ノ時

間

歐羅巴トハ歐洲中ノ近國ヲ云ヒ又地中海ノ濱岸トハチエニス<sup>エ</sup>チ<sup>フ</sup>ポト<sup>ト</sup>等ノ地ヲ云ヒ又黒海濱岸トハ歐洲トルコノ北邊魯西亞ノ南邊等ノ地ヲ總テ云フ

第三 歐羅巴外ニテマラツカ<sup>カ</sup>ノ海峡ヨリ近ク

司法省

又ハホルン岬ヨリ近キ地ニ在ル者ニ付テハ五

月間

ゲアラタルタルノ瀬戸ヲ過クレハ其中ニ入ルマラツカ<sup>カ</sup> 蘇門<sup>ダ</sup> ア<sup>シ</sup>西<sup>ア</sup>西<sup>ア</sup>トルコ<sup>コ</sup> カ<sup>カ</sup>ツ<sup>ツ</sup>ポ<sup>ポ</sup>ホルン<sup>ン</sup>ヲ越ヘテハ此外ナリ但シ南アメリカノ

海岸ハ惣テ此中ニ入ル此項ハ甚タ曖昧ナリ之レヲ以テ看ルトキハアフリカ海岸ヨリ南アメリカ及ヒ北亜米利加ノ地モ皆此中ニ入ル

第四 マラツカノ海峡及ソントノ海峡又ハホルン岬ヨリ遠キ國ニ在ル者ニ付テハ八月ノ時

間

但シ海上戦争ノ時ハ海外ニ在ル者ノ為メソノ

定期ヲ倍ス可シ

「マラツカ云々ト云フトキハ支那日本モ此中  
ニ入ル漫ニ廣クシテ的実ナラス故ニ經緯度  
ノ說然ル可シト思フナリ末文戰ノ節ハソノ  
期限ヲ倍スルトアリ五ヶ月ハ十ヶ月トナリ  
八ヶ月ハ十六ヶ月トナル迄ナリ  
第七十四條ノ佛蘭西國外ニ住所アル者佛蘭西  
ニ在ル時呼出ヲ受ケタルニ於テハ佛蘭西國內  
ニ住所アル者ト同一ノ定期内ニ出席スベシ但  
シ別段ノ道理アリテ裁判所ニテソノ定期ヲ更  
ニ延シタル時ハ格別ナリトス  
若シ佛國外ニ住所アルモノニテモ佛國內ニ  
テ見當レハ本國ニ住所アルモノト同様ナリ

司法省

ソノ時ハ被告人自身ハ外國ニ住居アルヲ以  
テ外國ヨリ呼出ス期限ニ出ツヘシト云フヲ  
得ス

以上ノ期限ハ之レヨリ短カクスルコトハ出来  
サレトモ裁判官ノ見込ニテ猶豫ヲ興フルコ  
トハ出来ルナリ

原告人ヨリ日限ノ違算アルトキ被告人ニテ  
定期マテ出席セスシテ可ナリト云フ時ハ出  
テスシテ可ナルヤ又ハ手数アリヤ

ソノ違算ノ廉ヲ申立定期ニ出席ス可キ旨ヲ  
唇翰ヲ以テ裁判所ヘ書キ送クルナリ

タトヒ被告人ニテ届出テサルモ元ヨリ裁判  
官ニテ呼出状ヲ檢シ違算アルトキハ被告人

ハ欠席裁判ニハセス定期マテハ待テ居ルナ  
リ

第七十四條餘論

「パレスクリアシヨ」三十年期限ノ終リタル  
後原告人ヨリ訴ヘタルトキ被告人ニテハ最  
早三十年期限終リタルニ付「パレスクリアシ  
ヨ」ノ權アルヲ申出ルナリ万一之レヲ申  
出サレハ滿期ノ權ヲ失フヲ以テ相当ノ裁判  
ヲ受ケ更ニ勘定ヲ立テサル可カラスソノ然  
ル所以ハ治産ノ禁中又ハ幼年中等ハ三十年  
ノ期限ニ算入セスタトヘハ治産ノ禁ヲ免カ  
レタル時又ハ丁年ニ至リタルトキヨリ再ヒ  
起算スルナリソレ等ノ差引ハ裁判官ハ知ラ

司法省

ス故ニ必ラス其旨ヲ申出サルベカラス  
第七十五條以下

第七十五條以下裁判言渡マテハ甚長シ然レ  
モソノ間ハ格別肝要ノヲナシ仍テ大意ノミ  
ヲ説クベシ裁判言渡ハ肝要ナルモノニ付之  
レヲ委シク説カン

呼出状中ニ日限八日ノ内ニ出席セサル可カ  
ラスト云フハ決シテ自分ノ体ヲ以テ裁判所  
ニ行クニハアラス代唇人ヲ立ルヲナリ  
被告人呼出状ヲ受クレハ右ノ日限中已レノ  
代書人ニ立テソノ代書人ニテ原告人ノ代書  
人ヘソノ趣ヲ云ヒ遣ハセハソレニテ足レリ  
之レヲ出席シタルト云フナリ

被告人ニテ手翰ヲ送ルニ及ハス代書師ヨリ  
手翰ヲ送クルナリ  
代書師ヨリ代書師へ手翰ヲ送ルニハ裁判席  
へ出ツル使吏ニテ送達シソノ賃ヲ取ル  
右八日ノ期限内ニ代書師ヲ立ソレヨリ十五  
日内ニ被告人ヨリ原告人へ答辯唇ヲ遣ハス  
ナリ第七十七條見合

過日説キタル如ク訴訟ノ証拠又ハ訴訟ノ目  
的トナルヲ書テ送ルナリ之レモ代書師ニ  
テ取扱日本入ハ手ヲ付ケス  
被告人ヨリ答辯書ヲ送ルニ此金ハ既ニ拂ヒ  
タリト云フトキハソノ受取書ヲ代書師ヨリ  
代書師へ送ルヲモアリ又送リテ不都合ナル

司法省

トキハ被告人ノ代書師ノ書記局へ送リ置キ  
テ原告人ノ代書師ヨリ被告人ノ代書師ノ方  
ニ相談ニ来ルトキ之レニ示スヲモアリソレ  
ヨリ原告人ニテ八日内ニソノ答辯書ヲ出ス  
元ヨリ原被告人ニテ答辯書ヲ出スモ出サ、  
ルモ勝手次第ナリ之レヲ出サ、ルキハ直ニ  
招書ヲ送リテ裁判ヲ乞フナリ

此章ハ此外格別肝要ナルヲナシ  
第八十三條 尅ノ訴訟ハ檢査ニ報告スベシ  
元ヨリ訴訟ハ私法ニテ人民保護ノ肝要ナル  
モノナリ故ニ檢事ソノ中へ立入り保護セサ  
ルベカラサルヲアリ  
訴訟ハ一人々々ノ私隻ナレモ時ニヨリ一般

ノ公益ニ関スルコトアリソノ時ハ檢事ソノ中ニ必ス立入ラサルヲ得スソノケ條ハコ、ニ掲ク

幼年治産ノ禁ヲ受ケシ人既ニ婚セシ婦等ノ事ニ付テハ檢事之レヲ保護セサルヲ得ス  
第八十三條ノ第一項ヨリ五項マテハ公益ニ係ル第六七項ハ能力ノナキモノニ原ル  
而後項ヲ逐テ説カントス

第一 國ノ安寧ニ管シタル訴訟官府ニ管シタル訴訟官ニ屬シタル土地邑並ニ公舎ニ管シタル訴訟貧人ノ為メ公チニナシタル贈遺ニ管セシタル訴訟

國ノ安寧ニ関シタル訴訟ハ人民ノ私益ト公益ト

司法省

益ニ係ルナリ

タトヘハ武器ヲ人民互ニ取扱フ之レ私益ナリ候シ武器ノ取扱ハ國ノ禁スルモノナルニ之レヲ取扱フハ則チ國ノ安寧ニカ、ル故則チ一般ノ公益ニ関スルナリ

此処原文宜シカラス  
國ノ安寧ニ管スルト記スルハ物ニノミカ、ル文ナリ。ソレニテハ意セマシ譯文ニ於テハ物モ事モ包含スル文ナリ譯文ノ方宜シ  
タトヘハ刑事ノ訴ヘアリ之レハ全ク國ノ安寧ノミナリ

此所ハ私益ヨリ出テ公益ニ觸レテ居ルモノナリ

日本ニ於テ未タ外國人一般ニ行ク能ハサル地アリ然ルニ日本人ニ於テ外國人ノ行クヲ得サル地ニ於テ約束スルコトアリ之レ二人ノ約束ト虽モ一般ニ関シ危キコトヲ生スヘシ之レ私益ヨリ公益ニ関スルナリ。政府ニ管シタル土地等ハ於テハ人民一般ノ訴訟ト同様ナリト虽モ此時ハ檢事立入ルナリ。立入ルトハ必ス檢事ツノ事件ニ付意見ヲ述フルコトヲ云以下准之

ツノ縣令ハ原告被告トナルト虽モ檢事立入ルナリ

邑ニ於テモ亦人民一般ト同シ邑モ人民ニ害アリテハナラサル為メニ檢事之レニ立入ル

司法省

公舎トハ貧院病院等ナリ之レ亦人民一般同様ノモノナリ之レニ管スル訴訟ニハ檢事立入り双方ノ為メニスルナリ

人ノ死スルトキ貧人ノ為メ公ケニ贈遺スルコトニ付キタル訴訟ニ於テハソノ死スル人有余ナクシテ親屬ノ為メニナラサルカ。又ハ有餘アリテモ親屬ニテ渡サ、ル等貧人ノ為メニナラサルカ。イツレ双方ノ為メニ檢事立入ルナリ

此七項ハ檢事ノ義務ナリ

ソノ他ハ此七項ノ後文ノ如ク檢事ヨリ立入ルコトモアリ又裁判官ヨリ立入レト云フコトモアリ

裁判席ニハ檢事ハ必ス陪席スルナリ何トナ  
レハ不意ニ立入ルヘキ事ノ生スルヲアリ。又  
民吏ノ半ハヨリ刑吏ノ起ルヲアリ但シ裁判  
官ニテモ  
申述ハ同トキハ檢事ニテモ見込ヨ  
獨逸ニテハ擔當ノ訴訟ニアサレハ檢事ハ出  
席セス候シ出席セサレハ不都合ノヲアリ万  
一訟庭ニテ一人忿怒ヲ生シ裁判官へ靴ヲ投  
ケ付ケルヲアラハ誰レカソノ罰ヲ請フベキ  
ヤ檢事ナリ

司法省



第十三号

诉讼法会议笔记

司法部

七年六月十日

第八十三條

第二 人ノ身上及ヒ後見ノ事ニ管シタル訴訟  
此項ハ人ノ身上即チ身分<sup>エタシ</sup>証<sup>シ</sup>昏<sup>ル</sup>ニ関スルナ  
リ<sup>エ</sup>身<sup>バ</sup>上<sup>ト</sup>云ヒタルノミニテハソノ意狭シ  
ト云フ説アリ  
「エタシビル」ニ関スルノ第一ハ人民死生ノ  
ニテソノ生レタルトキ一通ノ証書ヲ作り死  
シタルトキ又一通ヲ作ル  
ソノ「エタシビル」ノ争ヒハ何時ニ之レヲ作り  
タルカ又ソノ有ルカ無キカノトヨリ起ル  
ソノ第二ハ國ニ關係スルトニテ佛カ英カヲ  
區別スル為メナリ

司法省

第三ハ年齢ニ関スルトニテ第何年何月ニ生  
レタルニ付キソノ丁年カ幼年カヲ分明ニス  
ル為メナリ

第四男女ノ區別ニテ何レノ國ニ於テモソノ  
權利ハ男女一樣ナラサルナリ

第五人ノ生レタルトキヨリ無病ナル歟又ハ  
精神錯乱シタル歟ヲ記セサルヘカラス

第六親ト見認メ子ト見認メルトニテソノ私  
生公生ニ関セス父ハ誰レ母ハ誰レト記載ス  
ルナリ

第七相当ノ婚姻シタル人ノ子カ又ハ相当ノ  
婚姻セサル人ノ子カヲ記載スルナリ  
以上七件ハ「エタシビル」ノ根元トナルベキ大

切ノモノナリ

右ヲ簡略ニイヘハ 死生 何國 何年 男

女ノ區別

生レタル件精神ノ有無 誰ノ子 婚禮ノ有

無ノ七件ナリ

死ト生トヲニツニ分ツテ八件トス

外ニ一件アリ 刑吏ニ於テ施體加辱ノ刑ニ係

ルモノハ「エタシビル」ニ書キ入ルヘシ前ノ件

々ヲ合セテ九件トスベシ

「イタリヤ」ニテハ治産ノ禁ヲ受ケタル「ヲ」書

キ入ルナリ佛ニテハ「分欠ケタリ

ソ」ノ書キ入レヨナスニハ

刑事裁判所ヨリ民生官吏ニ達シ民生官吏ニ

司法省

テ「エタシヒル」ヘ書キ入ルヘシ

又有期無期ノ刑ハ書ク方可然入獄以下ハ「昏

クニ及ハズ

佛ニテ死刑ニ處シタルモノハソノ「刑死シタ

ル」ハ「昏セス蓋シソノ親族ノ恥辱ニナラサ

ル為メニス

又ソノ書セサル所以ハ「婚姻ノ節子ノ為メニ

耻ヲ包ムト云一説アリ

抑「エタシヒル」ニ人ノ生死婚姻有無等一般ノ

「ヲ」記スル趣意ハ人民ノ契約ヲ結フ時等用

心ノ為メニ書記スル「ナリ

死刑ニ於テハソノ人ノ終リニユヘ更ニ「契約

ヲ結フ等ノ「ナク總テ関係モナキユヘ書ス

ルモ用ヲナサスソノ人ノ恥ヲ包ミ書セサル  
方然ルヘシ

「エタシヒル」ノ「」ニ付テハ何レノ國ニモ欠ケ  
アリイタリヤモ欠ケアリ

日本ニテ之レヲ作ラント欲セハ各國ノ欠ケ  
ヲ受ケサル様アリタシ

タトヘハ婚姻ノ「」ハ書ケトモ孀トナリタル  
「」ハ書カスユヘニ何人モソノ人ハ未タ人ノ

妻ナリト思フナリ  
佛ニテモ不都合ヲ生スル「」アリ一婦ニテ兩

夫ヲ持「」アリ「エタシヒル」ニ書付テナキユヘ  
孀ニナリタルヤナキヤヲ知ル能ハス終ニソ

ノ孀トナリタル書付ヲ持參セヨト云フ「」ナ  
シ

司法省

又英國人ノ佛ニ歸化スル「」アリソノ歸化シ  
タル時ニ別ニ「エタシヒル」ヲ作り本國ノ「エタ

シヒル」ヘソノ委細ヲ書キ入ル、「」ナシ故ニ  
歸化ノ人民ハ兩國ノ權利ヲ持ツ等ノコトア

リ  
以國ノ人トナリタリト云フ「」ハソノ本國ヘ

ハ通達ハセス  
ソノ人ノ歸化シタルトキハ「」コンセイエイテ

タ「」ノ兼諾ヲ以勅唇ヲ作り言渡ス「」ナリ故  
ニソノ欠ケナキヲ要スルニハソノ歸化人ヲ

編入シタル國ノ民生官吏ヨリソノ原籍ノ官  
吏ヘソノ趣ヲ文通スレハ不都合ナカルベシ

以上ハ「エタシヒル」ノ根元ヲ説キタリ  
以下ハ右「エタシヒル」ノ「付テ」ノ訴訟ハ檢  
事へ告クベシト云フ「ヲ」ヲ説クベシ  
「ソ」ノ「エタシヒル」ニ関スル「ハ」初メヨリ起ル  
「ア」リ又訴訟ノ半ハヨリ起ル「ア」リ  
「タ」トヘハ子ノ父母ニ求ムル訴訟即子人ニ已  
レノ親ナリト訴フル「ト」ニテ「エタシヒル」ニ関  
スル主タル訴ナリ  
婚姻ノ「ト」ニ付テハ我カ夫ナリ我カ婦ナリト  
訴フル「ト」ハナキ「ト」ナレバ婚姻破約ノ訴ハ毎ニ  
之レアリ  
法ニ適セサル婚姻ニ於テ争ノ生シタルトキ  
ハ裁判官ニテ婚姻破約ヲ言渡ス然レバ「ソ」ノ

司 兼 濟

生レタルトキノ「エタシヒル」ニ書入ルコトナ  
シ  
又父母ノ知レサル子ノ父母ヲ尋ヌル「ト」ニ付  
キ父母ノ分カリタルトキハ裁判上ニテ其子  
ナリト言渡サレ且子ハ「ソ」ノ言渡ノ書付ヲ所  
持スルマテ「ソ」ノ「エタシヒル」ニ書入レス  
故ニ僅カニ年月ヲ過キ一方ニテ死去スレハ  
誰モ知ル「ト」ナク只「ソ」ノ書付ケアルノミ  
「エタシヒル」ニハ何其ノ子ト書テアレバ後ニ  
至リアノ子ハ共通ノ子ナリト云ヒ訴訟トナ  
リ「ソ」ノ子ノ負トナリタルトキハ「ソ」ノ言渡唇  
ヲ「ソ」ノ親カ所持スル「ト」ニテ子ノ「エタシヒル」  
ニ唇キ入レサルユヘ「ソ」ノ「エタシヒル」ニハ以

前ノ通リソノ人ノ子ニナリ居ルナリ

右等ハ皆「エタシヒル」ノ欠ケナリ

私生ノ子ヲ見認メタルトキハ「エタシヒル」ニ

書キ入レルナリ前ニ云フ書キ入レサルハ元

ヨリ嫡出ノ子ノ親ノ知レサルトキノコトナ

リ

右ハ「ホリス」ニ関スル「ハ」無之行政官吏ニ

テ世話ヲナシテ書キ入ルヘキナリ之ヲ書

キ入レサレハソノ人一代ノ事蹟分明ナラズ

「エタシヒル」ニ関スル「ハ」ニ付檢査ニ告ケサル

ヲ得サル「ハ」左ノ如シ

子ノ親ヲ見認ル莫

夫ニテ我カ婦ノ子ヲ我カ子ニアラス其通ノ

司法省

子ナリト云フ事

婚姻ヲ破約スル事

此三件ハ首タル訴訟ナル

外ニ二件アリ

風癩トナリ治産ノ禁ヲ受ル事

風癩ノ直リテ民権ヲ復スル事

此等ハ大切ノ「ハ」ナリ

右ハ私益ト公益ト混ス何トナレハ「エタシヒ

ル」ハ私益ナレバ公益ニ渉ルナリ

後見ノ「ハ」ニ管シタルトハ後見人ノ不勤ニ因

テ之レヲ退クル等ノ事ニ付テノ訴訟ナリ是

レヲ此ノ二項ニ出シタルトモ第六項ニ幼者

云々ト有之幼者ノ「ハ」ト云ヘハ後見人ノ莫モ

含ミアルユヘ此所へ出サストモ宜シ  
後見人ハ幼年ノ者ニ限ル

佛ノ法律如此不備ナル故ハ此ノ法律ヲ編集  
セシモノハ当時皆ナ裁判上実地ニ經歷シタ  
ルモノニテ我カ業前ニ依テ作りタルユヘナ  
リ

千八百四十年ノ頃佛ノ法学校ヨリ名代トシ  
テデマンブハラノナト出タリソノ節ハ扱ヒ  
タル法律ハ甚々宜シ従前曖昧タル文意アリ  
テ説キ兼タルトヨモ法學ノカラニ因テ充分  
ニ看キ顯ハシタリ故ニ此頃出来タル法律ハ  
今尚ホ稱賛セリ

司法省

シヨンノ長ヲナシタルトムロニブト云フ人  
ノ作りタルイホテ一キノ法律ソノ趣意ハ甚  
々宜シケレモ其編成疎漏ヲ免カレズ佛ニテ  
一般遺憾ナリト云フ  
前ニ私益ナレモ公益ニ涉ルト説キタルハ又  
トヘハ

凡癩人ヲ一般ノ人ト一同ニ置クトキハ如何  
ナル害ヲナスヤモ知ルベカラズ又ソノ人ヨ  
リ言ヘハ自カラ事ヲ為シテ如何ナル損ヲナ  
スヤモ亦知ルベカラズ此等ノ類ヲ云フ  
法律ヲ以テ保護スルト此ノ如シト虽モ時ニ  
ヨリ狂院中ニアリナカラ治産ノ禁ヲ受ケズ  
私ノ財産ヲ勝手ニ支配スルコトナトアリ

商法上澤山ノ仕入等ニテ一時恍惚トナリタルモノヲ直チニ風癲人トナシ更ニ金談ヨリソノ証人マテ出来ソレカ为メ裁判官ニテモ真ノ風癲ト認メ狂院へ入ルハ一トナト俛之レアリ佛ノ「ホーフリーカント云フ一婦人アリ三十歳斗リナリソノ人ノ父ノ死シタルトキソノ母ニテ嫡男ニ財産ヲ譲リタキ为メニソノ婦人ヲ風癲ナリト訴ヘ一時ソノ裁判トナリタリ因テソノ婦人控訴シテヨキ代言人ヲヤトヒ遂ニ勝チタリ尤モ右婦人ハ少シク風癲ニ似タルトナトアリシ故ニ前件ノ訴ヘニ及ヒタルトナリ

司法省

ソノ婦人ハ始メ各國へ旅行シタリ因テ各國ノ語ナトヲ覺ヘ膽太クナリ多分ノ金ヲモ費ヤシタリ右等ノ廉ヲ以テ風癲ト申出タルナリ  
「ホアツソナ」トモ其婦人ニ逢ヒタリ尤モ時ニ異ナル所アルヲ看ルト云フ

第三 裁判所ノ管轄異ナルヲ以テソノ裁判所ノ吟味ヲ受クルトテ拒ム訴訟

ソノ訴訟ノ品ニヨリテ夫々裁判所ノ違ヒアルトハ過日説キタリ  
ソノ裁判所ノ違ヒタルニ付キ必ラスソノ裁判所ノ裁判ヲ受クベシト云フトキナト云フ

拒ムト譯シアレ氏強情ニ抗拒スルトニアラ



スソノ裁判所ヲ避ル義ナリソノ時ハ此ノ權  
限内ニアラスト丁寧ニ云フナリ  
ソノ私益ト公益ト関スルト云フハ被告  
人ノナキ裁判ハ元ヨリナキナレモ裁判所ハ  
人民ニテ尊敬ヲ尽クサルベカラス故ニ裁  
判所ノ当不当ヲ論スヘカラサルモノユヘ檢  
事ヘ告ケ檢査ニテソノ当否ニ付キ意見ヲ述  
ブ即チ公益ト私益ナリ  
此トニ付キ下ニ正條アリ故ニ贅セス

第四 數ヶノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中一  
箇ノ裁判所ニ定ムベキ為メナシタル訴訟裁判  
役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟裁判役相手方ノ親  
族ナルニ付キ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントス

司法省

ル訴訟

原文ニテ言ヘハ裁判官ノ規則ト肩イテアリ  
以譯文ハ直譯ニアラス意譯ナリ此ノ意ハ裁  
判所ニツトモ我權内ニアラスト云ヒ又々二  
ツトモ我カ權内ナリト云ヒタルトキナリ  
云フナリ  
裁判所ノ規則ハ第三百六十三條以下ニ之レ  
有リ  
治安裁判所ニツニテ共ニ我カ權内又ハ我カ  
權外ト云フトキハ縣裁判所ニテ之レヲ定ム  
縣裁判所ニテ同様ナル時ハ控訴廳ニテ之レ  
ヲ定ム控訴廳ニテ同様ナルトキハ覆審院ニ  
テ之レヲ定ム

縣裁判所ニツキテ争フトキハソノ管轄ノ控訴廳ニテ之レヲ定ムノ候如キ巴里ト管轄ト違ル故能ハト

控訴廳ノ争ヒノ時ハ他ノ控訴廳ニテ之レヲ定ムルヲ能ハス「クルトカツサシオニニテ定ムルヨリ外ナシ

タトヘハ被告人巴里ノ裁判所ニ呼出サレタルトキソノ被告人ニテ權内ニアラスト云フトキハソノ裁判官ニテ直ニニ以ノ裁判所ノ權内ナリト裁判ス若シソノ時「ホルド」ノ裁判所ニテモ同シク我カ權内ナリト云フトキハ權限ノ争ヒトナルソノ時ハソノ上ノ控訴廳皆管轄違フ故ニ大審院ニテ定ム管轄外ノ

司法省

裁判所ニ於テ争フ時ソノ縣邑ノ裁判所ヲ論セス皆之レヲ定ムルハ大審院ナリ

裁判役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟トハ我カ親族ノモノ裁判官ナルトキノ「ナリ」原告モ被告モ云フ「アリ」親族ノ六級マテハ「避クル」ナリ

右ヲ「避クル」ニ就テハ別ニ法アリ故ニ「述」セス

裁判官相手方ノ云々ハ親族一人ナルトキハソノ裁判官ノ代ハルノミ二人以上ノ親族アルトキハソノ訴訟ヲ他ノ裁判所ヘ移スナリ  
裁判所中ノ一局ニ二人ノ親族アルト云フニ  
アラス一ノ裁判所中ニ二人アルトキノ「ナリ」

云フナリ

若シ控訴裁判所第一局ニ出ツルニソノ局ニ親族一人アリト云フコトヲ訴フレハ他ノ裁判官ヲ以テ代ラシム

之レニ反シソノ一局ニハ親族一人アリ他ノ局ニ二人アル時故障申立ツレハソノ控訴廳ニテ訴訟ハ取上ケス

タトヘハ巴里ニテ親族アルタメ訴訟ノ出来サルトキハソノ近傍三ヶ所ノ内最モ近キ控訴廳ヘ移ス

故障申述フル時縣裁判所ニテハ親族二人以上控訴廳ニテハ親族三人以上アレハ其所ニテ訴訟ハ取上ス

司法省

之レヲ願ヒ出ルニハ原被双方唇付ヲ以テソノ訴吏ヲ取扱フ間ハヨシ既ニ裁判所ニ出テ争フ初メントスルトキニハ遅シ

右ノ場合ニ於テ原被告人共ニ裁判所へ出争フマテ故障ヲ述ヘサルトキハ裁判スルトモ宜シ又親族アルヲ知リテモソノ訴ヲナサハルトキハ宜シ

右ハ義務ニハアラス只法律ニ於テ夫レ丈ケノ自由ヲ與ヘタルモノナリ

使吏ノ云々トハ同シ様ナレトモ親族ノ為メニト書テアリ自カラ別アリ  
裁判官ニ在ツテハ親族ノ為メニ私シハナサルモノト信スルナリ

使吏ハ人物モ劣リ其弊モ自カラアル故ニ親族ノ為メニスル云々ト別段禁シタルナリ右ニ注意セサルヘカラサルトアリ使吏原告人ノ為メニ呼出状ヲ送達スルトキ被告人ニテ其親族ノ為メナリト云ハサレハソノ効ノナキトヲ掩テ仕舞フナリ之効アルナキ呼出状云ルヲ

右ノ吏ハ第百七十三条ニ詳カナリ使吏ニテ親族ノ為メニ送達シタルトキハ訴訟トナル前ニ言ハサルヘカラス裁判官ニ親族アルトキハ裁判所へ出テ言ヲ登セサル前マテハ申立テ苦シカラスソノ時間ハ呼出状ニ付テノ時間ヨリハ甚タ長キモノナリ

司法省

使吏ノ親族ノ為メニナシタルトキハ其呼出状ヲ送リ直ス

裁判官ノ親族ナルニ付キ他へ移ストキハ訴訟ヲ仕直ストナシ

ソノ訴訟ヲ他へ移ストキハ請取りタル文ケノ書キ付ケテ他ノ裁判官へ引渡スナリソノ請取りタル裁判官ハ八日内ニ何程ノ昏類アリトモ尽ク関セサルヘカラス

右等ノトモアルユヘ佛ニテモ身方ニナルトナラハルトノ事ハ能ク防キテアルナリ

之レニモ檢吏ノ立入ルトハソノ裁判所ニテ請取りテモ心付カサルトアリ裁判所ニテ人ノ疑ヲ受ケテハナラサルユヘ檢事ニテ意見ヲ

述フルナリ

第五 裁判役不正ノ裁判ヲナシタルニ因リ其  
裁判ヲ取消サントスル訴訟

此項ノ譯文ハ原書ノ意ヲ敷衍シテ書キタル  
モノナリ原文ハソノ人ニ荷擔シタルトア  
リ

前項ノ意ハ裁判官ニテ過チヲナスヤノ疑ア  
ルノミ此ノ項ニテハ既ニ過チヲナシタルト  
ナリ

此項ハ既ニ裁判ヲナシタル後ノトナリ  
親族ヲ云フニアラス一般人ニカ、リ偏頗ノ  
裁判ヲナシタルニ付テノトナリ第五百五条  
ニ詳カナリ其類惣テ四件アリ

司法省

○計略ヲ用ユ ○書類ヲカクス

○賄賂ヲ取ル ○ソノ人ノ為メニ裁判ス  
ルトテ拒ム之レ等ヲ荷擔スルト云フコトナ  
リ

刑吏ハハ此項ニアタルト多シ

重キヲ輕クスルト又ハ不吟味ノト等アルナ  
リ

タトヘハソノ荷擔スル裁判官一人ナルトキ  
ハソノ裁判所へ訴フ二人以上ナルトキハ一  
等上ノ裁判所へ訴フ

若シ治安裁判所ナレハ縣裁判所へ訴フ縣裁  
判所ニテ二人以上ナレハ控訴廳へ訴フ

縣裁判所ニテ一人ナルトキハ只ソノ裁判官

ヲ換ヘタルノミニテ訴ヲ聽ク

裁判所ニテハソノ荷擔ノ有無ヲ取調ヘ弥荷  
擔ニ無相違トキハソノ裁判所ヨリ唇付ヲ渡  
スソノ書付ケシ以テ控訴廳へ出シ控訴廳ニ  
テソノ当否ヲ判ス

若シソノモノニ於テ申立ノ実ナラサルトキ  
ハソノ裁判ヲ受ケ更ニ三百フランクノ罰ヲ  
受ク

右ハ控訴トシテ之レヲ取上ルニアラス元ノ  
裁判ノ当否ヲ判スルタメナリ

控訴廳ニテ此更起レハ覆審院ニテ此更ヲナ  
ス

以前ハ臨時裁判所へ出ス近來ハ説キタル通  
司法省

リナリ

區裁判所ニ訴ヘタルモノ不服ニテ府縣裁判  
所へ上告シ終審トナリタルトキ此更アルモ  
矢張り控訴廳へ持出スナリ

タトヘハ千五百フランク以下ノ裁判ヲ乞ヒ  
終審トナルソノ時ニ縣裁判官ニ此更アリタ  
ルトキハ即チ控訴廳へ出ス

縣裁判所ニ於テ終審ノ裁判ニ付キ裁判官ノ  
偏頗アルト訴ヘタルトキソノ裁判所ニテ取  
調弥ソノ更ノナリタルトキハ書付ヲ以テ弥  
アリトソノ訴人へ達スソコテ控訴廳へ出ツ  
控訴廳ニテ取調ヘ万一ソノ裁判ノ宜シカラ  
サルトキハソノ更ヲ達ス

原被ノ内一方ノ疑心アルモノヨリソノ上ノ  
裁判所へ出ス右ヲ檢査ニテ聞カサルヲ得ズ  
即チ公益ト私益ト相関渉スルモノナレハナ  
リホアツソナード自カラ考フルニ終審ノ裁  
判ナラハ控訴廳へ出ツルコトハ前ニ説キタル  
通りナリ始審ノ裁判ニ於テハ控訴スルノ道  
及ヒ荷擔ヲ許フルノ道モアリ何レヲ先スヘ  
キヤ法律上未タソノ取り極メ之レナシ  
ソノ時ニハ控訴ノ出来ルコトナラハ控訴ス  
ル方ヨロシ何ントナレハ万一裁判官ノ荷擔  
シタルコトナキトキハ自カラハ罰ヲ受ケ裁  
官ニ対シテハ償金ヲ出シソノ上裁判ノ法ニ  
適シタルトキハ何ノ役ニモタハズ

司法官



第  
十四  
号

許  
詔  
法  
令  
後  
筆  
記

司  
法  
省

第八十三條

過日説キタル中ニ非常ノ道ヲ以上告スル  
ト通常ノ道ヲ以テ上告スルト相混スル  
ヲ説カン

一体訴訟ニノ規則アリ又故障申立テノ規則  
アリテ彼ト此トアルトキハ此方ヨリ訴フベ  
キナリ

タトヘハ故障申立ノ道ト上告ノ道トニツア  
ルトキハ故障ヲ先キニシ上告ヲ後ニスルナ  
リソノ中ニモ此レハ大審院へ訴フルト彼レ  
ハレケートシビルへ訴フルト區別アリ  
過日説キタル裁判官ニテ荷擔ノ裁判シタル

司法省

ニ付訴出ルトニ於テハ別段ノ規則ナシ  
今縣裁判所ニテ千五百フラン以上ノ始審  
ヲナスニ不服ナレハ上等ノ裁判所ニ控訴ヲ  
ナシテ裁判ヲ受ケ猶不服ナルトキハ大審院  
へ上告ス故ニ縣裁判官ニテ賄賂ヲ取り荷擔  
ノ裁判ヲ為シタルトキハ控訴ノ道モアリ又  
大審院へ上告ノ道モアリ  
ソノ時ハ先ツ控訴ノ道ヲ踏ミ登リ控訴廳へ  
出ツ之レ通常ノ道ナリ  
然ルニ控訴シタルモノ勝チタリテ前ノ裁判  
官ノ賄賂云々ノトハ消滅ス  
右ニ反シ控訴ニテ負ケタリツノトキハ賄賂  
ヲ取りタリトモ前キノ裁判ヲ怨ムト能ハス

若シソノ控訴ハ止メニシテ賄賂ヲ取りタル  
裁判官ヲ相手取りソノ枉法ノ一ヲ訴フル時  
ハ之レ非常ノ道ニテレケートシビルヘ訴フ  
ソノ時ハ控訴スルヲ能ハス  
縣裁判所ニテ枉法ノモノ一人ナレハソノ人  
ヲ相手取り二人以上ナレハ裁判所ヲ相手取  
リ控訴廳ノレケートシビルヘ訴フソノ時ハ  
控訴ノ道ハ断ユ  
右ノ通り通常非常ノ両道アルトキハ必ラス  
控訴ヲ先ニナスヘシ何トナレハ枉法ヲ訴ヘ  
テ万一負ケルトキハ罰金ヲ出シ且裁判官ヘ  
償金ヲ出ストドナル甚々危険ノ一ナリ  
故ニ控訴ノ方ヲ先ニスルナリ

司法省

枉法アル場合ニ於テハタトヘソノ枉ラレタ  
ル人ヨリ訴ヘストモ檢事ノ耳目アリ裁判官  
ノ罪ハ何レヨリカ發覺シテ譴責トナルトナ  
レハ我ニ於テ遺恨ナカルベシ  
タトヘハ縣裁判所ニテ終審ヲナシタル訴ヲ  
控訴廳ヘ訴ヘタルトキ裁判官ノ枉法アラハ  
大審<sup>院</sup>へ上告ス  
ソノ時取消ノ道ト枉法ヲ訴フルトノ両道ア  
リソノトキハ必ラス取消ヲ前キニナスナリ  
大審院ヘ訴ヘタルトキ大審院ニテソノ取消  
ノ上告ハ立タ、スト申渡サレタルトキハ前  
控訴廳ノ裁判全ク善キモノトナル  
故ニソノ時ハ手ヲ替ヘテ裁判官ノ枉法ヲ訴

フ之レ非常ノ道ナリ  
大審院ニテ裁判ヲコハシタルトキハ縣裁判  
所ノ裁判ハ消ユルナリ右ニ反シテ大審院ニ  
テ取揚ケサルトキハ縣裁判所ノ裁判ハ役ニ  
立ツナリ

縣裁判所ヨリ控訴廳へ出ヅルニ於テモ同前  
ノトニテ大審院ニテツノ上告ヲ取り揚ケタ  
ルトキハ控訴廳ノ裁判ハコハサレタルモノ  
ユヘ枉法ヲ訴フルト能ハス

大審院ニテ上告ヲ取揚ケサルトキハ縣裁判  
所及ヒ控訴廳ノ裁判トモ役ニ立ツトハ元ト  
大審院ハ裁判ヲコハス斗リニテ裁判ヲナス  
所ニアラス故ニ元トノ裁判ハ役ニ立居ルナ  
リ

司法省

若シ大審院ニテツノ上告ヲコハシタルトキ  
ハ他ノ控訴廳へ移シテ裁判セシム  
裁判官枉法ノトハ僅ニアルトナリ万一之レ  
アル時ト虽モ枉法ヲ訴フルハ危キ事ナルニ  
因リテ必ラス先ツ上告ノ道ヨリナスナリ  
故ニ控訴上告ニテ意ノ如ク勝チタルトキハ  
ソレ切ニテ済ムナリツノ時ハ裁判官枉法ノ  
事ハ訴フルト得ス  
裁判官枉法ノトハ刑変ニ屬スルトニテ必ラ  
ス檢査ヨリ告クルナリ  
「<sup>區</sup>カント<sup>區</sup>」ハ始審ニテ「<sup>縣</sup>アロ<sup>縣</sup>」ニテ終審  
トナリタルトキハ控訴ハ出未サルナリソノ

時ハ大審院へ上告スルナリ

カツサシオントハ裁判ヲコハス所ト云フナ  
リ但シ訴訟ヲ下ケルヲモアルニ付キ下ケル  
ノ義モアルヘキナレモコハスノ字義斗リナ  
リカールルハ上へノ裁判所ト云フ義ナリ  
若シ欠席裁判ニ逢ヒタルトキ故障ヲ申立ル  
道ト枉法ヲ訴フル道トニツアリ  
故障ノ方ハ間違ヒテ後ノ定ヒナシ枉法ヲ訴  
ヘテ万一誤リタルトキハ前ニ述タル通り大  
ナル禍アリ

第六 夫ノ許諾ヲ得スシテ為シタル婦ノ許諾  
又ハ夫ノ許諾アリト虽モ婦ノ嫁資分枯ノ契  
約ニテ婚姻ヲ結ビタル中ソノ婦ノ嫁資ニ管シ

司法省

タル許諾幼者ノ訴訟其他原告又ハ被告ノ一方  
管財人ノ補佐ヲ受クル訴訟

能カナキモノニ付テ訴訟ノ起リタルトキハ  
檢査ニテソノ人ノ為メニ防キ且保護セサル  
ヘカラス

此項ニ付テ云フトキハ公益ノナキト云フモ  
可ナリ

係シ弱ヲ助クルハ公益ナルユヘ檢事之レヲ  
助クル為メニ聞クナリ

○婚姻ヲナセシ婦○幼年ノ後見ヲ免カレサ  
ルモノ○或ハ後見ヲ免レタルモノ

○治産ノ禁ヲ受ケ又精神ナキモノ  
○瘋癲ニテ狂院ニ入ルモノ 治産ノ禁ハ受ズ

「プロジツク」ト云テ精神ノ弱キ浪費者右ハ裁  
判所ヨリ管財人ヲ附ケ置クナリ  
此五ツハ能力ナキモノナリ

婚姻ヲナシタル婦ニテ夫ノ許シヲ受ケタル  
モノハ檢事ニ告ケスト虽モ夫ニテ裁判所へ  
出ツルコトヲ許サ、ルトキ婦ニテ訴訟ヲナス

トキハ必ラス檢事ニテ聞ク  
夫ノ許シヲ受ケタリトモ檢事知ラサルコト得  
サルコトアリ

財産持寄りノ婚姻契約アル時ナリソノ契約  
ニ於テハソノ財産利息ハ遺ヒテモ苦シカラ  
スト虽モ元トノ財産ハ勝手ニ勤カスト能ハ  
ス右ニ付テノ訴訟ハ檢事聞カサルコト得ス

司法官

幼年ハ後見ヲ免カルトモ免カレサルトモ親  
族會議ノ許シヲ受ケサレハ訴訟ヲナスコト  
ヲ得ズ

後見ヲ免カレタルモノハ契約ヲナスコト得ル  
ト虽モ訴訟ニ於テハ許シナケレハ之レヲ為  
スコトヲ得ズ原書ニハソノ他ノ字ヲ一般ニ作  
ル惣テ管財人ノ補佐ヲ受ケタルモノ、訴訟  
ハ檢事ニテ聞カサルコト得サル文意ナリ

○治産ノ禁ヲ受ケタルモノ

○狂院ニ入ルモノ

○浪費者フロシツク

此三ツハ律上ニ別段書セサルト虽モ管財人  
ノ補佐ヲ受クト書テアルユヘ此中ニ籠リ居

ルナリ

婚セシ婦ハ弱質ノタメニ民権ナシト云フニ  
アラス嫁シテハ夫ニ従フノ道ヨリシテ能力  
ナキモノト一般トス

ソノ民権ハアリト虽モ夫ノ許シアラサレハ  
自終ニ権ヲ行フコト得ス保シ夫ニテ拒ミタ  
ル時ハ裁判所ニテ助ケテ差支ハ無之

第七 失踪ノ思度ヲ受ケタル者ニ管シタル許  
訟

又檢事ハソノ他ノ訴訟ト虽モ己レノ干渉スベ  
キコトヲ必要ナリト思量スル時ハソノ訴訟ノ報告  
ヲ得ント求ムベシ又裁判所ヨリソノ職務ヲ以  
テ檢事ニ訴訟ヲ報告スベキノ言渡ヲナスコトヲ

司法省

得ベシ

佛ニテ失踪ト云フハ旅行中等ヲ云フニアラ  
ス何レノ國ニ居ルヤ又ハ死生モ分明ナラサ  
ルモノ之レヲ失踪ト云フナリ

失踪ニテ歳ヲ經ルニ從ツテ此人ハ死シタル  
ニテモアルベシト思フナリ

右ニ付テ期限アリ

五年マテハ失踪ト思度スル者ト云フ五年ヲ  
過クレハ失踪者ト云フ決シテ死シタル訟ナ  
キニ死セリト云フコトヲ得ス

タトヒ死セズトモ財産ノ取扱アルニ付キリ  
ノ処分ノ規則ヲ立ツルナリ

若シ人ノ代理人ヲ置カズシテ他行シタル時

失踪ト思フトキハソノ財産ヲソノマ、ニ置  
ク、能ハズ依テソノ関係ノ者ヨリ訴へ出レ  
ハ縣裁判所ヨリ管財人ヲ立ツルナリ  
失踪ト思フトキハ債主等ヨリ訴へ出ツレハ  
裁判所ニテ取調ムノ上失踪ト思度スル者ト  
ナス

ソノ失踪ノ思度ヲ受ケシモノ  
諸會計又ハ會社ノ分配又ハ相續ノ分配及ヒ  
ソノ惣會計會社ノ惣會計等ニ付テハ公証人  
ニテ立合代理ヲナスナリ  
以上四ヶ條ノ一ニ付テハ目録等ヲ作ラサル  
ベカラス

司法省

キハソノ裁判所ニテ行届サルエハソノ不動  
産ノアル地ノ裁判所へ言送り代理人ヲ立テ  
ソノ相当ノ処置ヲ頼ミ遣スナリ  
失踪者自ラ代理ヲ置タルトキハ十年間代理  
ヲナサシメ裁判所ヨリ代理ヲ置キタルトキ  
ハ五年間代理ヲナサシム  
若シソノ代理惣代理ナル時ハ裁判所ヨリ手  
ヲ付ケズモシ幾部分ノ代理ナルトキハ右ヲ  
惣代理ニナストモ別人ヲ加ヘテ代理セシム  
ルトモ裁判所ニテ申付ケルナリ  
代理アルトキハ十年ノ後一ヶ年ノ間穿鑿ヲ  
ナシソノ一ヶ年ノ後跡踪ノ分レサルトキハ  
失踪者ト言渡スナリ



代理人ナキトキハ五ヶ年ノ内末ノ一ヶ年ヲ  
旁鑿期限トシ合セテ五ヶ年ヲ過クレハ失踪  
者ト言渡スナリ  
一ヶ年間旁鑿セヨト言渡ストキハ張出シヲ  
ナス太政官日誌へモ載セ裁判所ノ新聞誌ニ  
モ出ス右ニテ一向知レサルトキハ失踪者ト  
ナス  
此言渡シハ相續人債主ツノ他関係ノモノヨ  
リ訴へ出ルニアラサレハ言渡スコナシ  
失踪ノ思度ト旁鑿トノ言渡シハ失踪者ノ子  
孫又ツノ債主等ノ訴ニヨリ之レヲ言渡ス  
弥失踪者ト言渡ストキハ必ラス相續人ノ訴  
ニ依ルナリ

司法省

初メ失踪ト思度スルニ付キ代理ヲ申立ルト  
キハ必ラス檢事ヨリ申立ルナリ公益ノ為メ  
ナリ後チ弥失踪者ト言渡ストキハ檢事立入  
ラス  
失踪者ト定マリタルトキハツノ弟姪等ニテ  
相續人トナリテ仮リニツノ相續ヲナス其場  
ハ弥失踪トナリタル日ヨリ仮リニ相續シタ  
ルト見做スナリツノ節ハ証人ヲ立ツ何トナ  
レハツノモノ帰り来ルトキハツノ財産ヲ返  
サ、ルヲ得サレハナリ  
ツノ財産ヲ返ス期限ハツノ失踪ノ言渡ヲ受  
ケタル日ヨリ三十年ニ至ルナリ  
代理アレハ前ノ十年ヲ合セテ四十一年代理

ナケレハ前五年ヲ合セテ三十五年ヲ過クベ  
シソノ失踪者老人ニテ百歳ノトキニ至レハ  
三十年ヲ待タス  
三十年ヲ過クルカ又ハソノ失踪人ノ齡ヲ計  
算シテ百歳ニモ過クルトキハ仮リノ相續人  
真ノ相續ヲナシ度キ旨ヲ訴フソノ時ハ証人  
モナキナリ  
万一真ノ相續ヲナシタル後ニ其モノ歸リ来  
ルトキハ相續人不平ナリトモ財産ヲ返サ、  
ルヲ得ス  
尤モ尽クハ返スニ及ハス費用シタルモノ賣  
リタルモノハソノマ、ニテ返サズ現存スル  
物件ノミソノマ、返スナリ

司法省

費用スル今ハ返スニ及ハスト云ヘドモ若シ  
失踪者ノ不動産等賣リタル金ニテ買入レシ  
物件及ヒソノ利益等アレハ之ヲ返サ、ル  
ヲ得ス  
ソノ婦アルトキハ財産ノ約束ニヨリテソレ  
ニ違ヒアリト虽モ一々説明セント欲セハ婚  
姻ノ契約ヲ尽ク説カサルヲ得ス故ニ暫ラク  
置ク  
失踪ノトニ付テノ立方ニ甚々不條理ナルト  
アリソノ婦タルモノハ百年ヲ過クルトモ再  
婚スルヲ能ハス  
佛ニテ以前離婚ヲ許シタルトキト虽モ失踪  
ヲ以テ離婚ヲ為ストモ許サス

今日ハ離婚ノ法ヲ廢シタルニ付キ驚クニ及  
ハサレトモ人情ヨリ言ヘハ五ヶ年ヲ過キタ  
ラハ再婚ヲ許シテモ可ナルニ似タリ  
失踪者ノ子アレハソノ養育ハ法律中ソレ々  
々ノヶ條アリテ世話ノ爲ニ方アリ  
第一ノ期限ノ時代理ヲ付ケルトキハ檢事即  
チ原告人トナル

ソノ他ノ場合ニテハ檢査ニテ原告人トハナ  
ラスト虽尼必ラス陪席テソレ々々ノ保護ヲ  
ナス何ノ爲メニ陪席シテ意見ヲ述フルト云  
フニ孤獨無依モノト思フエヘ保護セサルヘ  
カラス之レ檢事ノ職務ナリ義務ナリ  
五年ト起算スルハ失踪者ソノ地ヲ去リタル

司法省

日ヨリ起算ス

去リタル後二ヶ年ヲ過キテ如シ失踪ト思フ  
トキハ後三ヶ年ニテ五ヶ年トナル

代理又置テ去リタルモノハ穿鑿中一ヶ年ヲ  
前ノ十ヶ年ノ外ニ算シテ十一ヶ年トナル代理  
ヲ置カスシテ去リタルモノハ五ヶ年中ニ穿  
鑿ノ一ヶ年モアルナリ

第八十三條第一項ヨリ第七項マテノ一ハ必  
ラス檢査ニ通スベキナリ万一檢査ニ通セ  
スシテ裁判ヲナシタルトキハレケートシビ  
ルト云フ非常ノ道ヲ以テ訴ヲ聽ク所へ出ツ  
ルナリ

此ノレケートシビルハ何レノ裁判所ニモ之

レアリ

万一檢査陪席ナク又ハ陪席シテ意見ヲ述ヘ  
サル中裁判ヨナスニ能力ナキモノ、勝チタ  
ルトキ一方ノ能力アルモノニテ「レケ」トシ  
ビルヘ出ツル「レ」能ハス

能力ナキモノ、負ケタルトキハ必ラス「レ」ケ  
「ト」トシビルヘ出ツルナリ

既ニ述フル如ク本條ノ一項ヨリ七項マテハ  
必ラス檢査ニ通スベシソノ他ノ「ト」ハ裁判官

ニテ通セント思フトキハ之レヲ通シ檢査ニ  
「レ」聞カント思フトキハ求メテ之レヲ聞ク裁

判官ト檢査トノ適宜ナリ故ニソノ場合ニ於  
テ原被告人トモ「レ」ケ「ト」トシビルヘ出ツル「ト」

司法省

ヲ得ス

第八十四條 檢査及ヒ其代役ノ共ニ失踪トナ  
リ又ハ故障アル時ハ裁判役中ノ一人又ハソノ  
代役中ノ一人之レニ代ルベシ

檢査及ヒソノ代役ノ共ニ失踪ト昏キタルハ  
前ニ説ク失踪ノ如キニハアラスソノ場ニ居  
ラザルトキナリ故障ト同シ

旅行或ハ病亮等ノ「ト」ナリ  
若シ檢査及ヒ代役ノ居ラザルトキハ裁判官

ニテ之レニ代ルナリ此條別ニ説ク「ト」ナシ

司法省

第十五号

訴訟法會議筆記

六月二十日

司法部

才五章 吟味ノ支吟味ノ公ケナシ支吟  
味取締、規則

第八十五條 原告被告ハ其代書師ノ助ヲ得テ  
自カラ弁論スルコトヲ得ベシ然レ原告人ハ被告  
ノ心情ニ因リ又ハ其者支故ヲ経サルニ因リ相  
当ノ禮義ヲ以テ其趣意ヲ速フルコト能ハス又ハ  
裁判役ノ了知シ得可キ様ニ其意ヲ明白ニ速フ  
ルコト能ハサルヲ裁判所ニテ知リタルキハ自カ  
ラ弁論スルヲ禁スルコトヲ得ベシ

此條ハ代書師ノ助ケハ原被トモ必ラス頼マ  
サルヘカラス自カラソノ訴訟ヲ拒クコト能ハ  
サルトキハ代書人ヲタノムヘキコトヲ云フ  
相当ノ禮義トハ怒リニ堪兼テ罵詈スルホヲ

司法省

云フ無禮ト云フ字ナリ  
心情トハ怒氣ヲ含ムコトナリ

支故ヲ経サルトハ場慣レサルコトナリ  
自カラ弁論スルヲ禁スル上ニハ代書人ヲ頼  
マサルヲ得サルナリ

小サキ町(小サキトハ繁昌ナラサルト云フナ  
リ)ノ裁判所ニ至リテハ代書人ニテ代書人ノ  
代リヲナス何トナレハ代書人ノ局トテハ別  
ニ無ケレハナリ

此所ニ一ツノ注意セサルヘカラサルハ被告  
人ノ自カラ拒クニアラス原告人ニテモ自  
カラ拒クテ勝手次ナリ  
カニトシニ在ル治安裁判所ニテモ代書人ヲ

出シテ拒カシムルヲ妨ケナレ  
アルコト今スマシニテモ小村ナレハ代書師  
ヲ代言人トナス氏若シカラス

府縣裁判所ニテハ自カラ拒クコト能ハサル  
モノハ代言人ヲ出スモ若シカラス治安裁判  
所ニライテ自カラ拒クヲ得サルトモハ親

族朋友ヲ以テ代理人トナスヲ得ル  
刑変ニ於テハ親族朋友ニテモ可ナリ民変ナ  
レハ必ラス代書師代言人ニカキルナリ

本條中文意ノ照應スル所ニアリ。心情ニヨリ。  
相当ノ禮義ヲ云々。変故ヲ経サレニ因リ。ソノ  
趣意ヲ述フルヲ能ハス。之レナリ

代言人長トシ檢  
査長副員ニテ

代言人ノ長トシ  
ニ非ラス

司法省

在職ノ裁判役檢査長代言人長換変若シ此等ノ  
副員ヲシテ縦令掛リ以外ノ裁判所ト垂氏口上  
又ハ書面ヲ以テ己レノ訴訟ヲ助ケレムルヲ  
任スベカラス然レ氏此等ノ官吏若シ其副員ハ  
何レノ裁判所ニ於テモ己レノ身ニ管シタル訴  
訟宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親ニ管シタル訴訟ソ  
ノ後見ヲ為ス幼者ニ管シタル訴訟ヲ為シテ自  
ラ弁論スルヲ得ベシ

裁判所吟味中ニ書付ヲ以テ旨意ヲ述フルモ  
可ナリ之レヲ書付ケノ相談ト云フ之レハ双  
方ニテ調印シテ出シテモ可ナリ法律家ノ調  
印ニテモ可ナリ

此書付ケハ双方弁論ノ前ニテモ決ニテモ弁



論ノ後ニテモ可ナリ但裁判言渡ノ前ニアラ  
カレハ能ハス

右ノ書付ケニテソノ訴訟ノ大畧ハ分明ニ  
ルナリ

此書付ケノ下ハ此章ノ大意ヲ撮ニテ説キ  
ナリ

此條ニ在職ト書キタルハ右ニ及シタル裁判  
官ノ名ノミアリテ非職ナル者アレハナリ

中タリ在職ノ官吏ニ此下ヲ禁スルハ私ヲ防  
ク為メナリ

裁判官ハ己レノ身ニ管シタル訴訟以下記載  
スル所口ノ訴訟ニ於テ弁論スル下ヲ得ルト  
モ凡ソノキハ即チ訴訟人代理人ナリ裁判官

司法省

ニアラス

ソノ節ニ至リソノ裁判官自ラ裁判ヲナスト

云フトキハソノ訴訟ハ故障ヲ速ヘテ他ノ裁  
判所へ移ス下ヲ得可シ如シソノ裁判官ニテ

此訴訟ハ己レ親族ノ訴訟ナル故我ハ関  
セスト云フトキハソノ原告人ニテ故障ヲ速

フルコトヲ得ス然レ氏裁判官二人以上ソノ  
關係ノモノアルトキハ原告被告ノ内一方ノ

願ニヨリ他ニ裁判ヲ移スナリ

又ハ七條 双方ノ弁論ハ別段法律ニテ隱密ニ  
為ス可キ下ヲ定メタル場合ノ外之ヲ公ケざる

スベシ○然レ氏公ケニ弁論ヲ為ス中ハ甚シキ  
耻辱又ハ不都合ヲ生スベキニ於テハ隱密ニ弁

論スベキトテ裁判所ヨリ言渡スルヲ得ベシ然  
レ氏ノ言添ヲ為サントスルニハ裁判役ハ評  
議ヲ為シツノ評議ノ旨ヲ控訴院ノ控受長ニ告  
知スヘシ又控訴院ニ為シタル訴訟ノ其ハ之ヲ  
裁判事務寄相ニ告知スベシ

凡俗ニ関スルトテハ陰密ニ為スナリ  
コノ條ハ同更ヲ及復シテ言ヒタルモノナリ  
陰密ニナスヘキ種類ヲ定メント欲スルハカ  
タレ善キ凡俗ニ及スルコトハ惣テ此條ニ入  
ル  
必ラス男女ノコトノニアラス  
然レ凡佛ニテ凡俗ニ関スルト云ヘハ多クハ  
男女犯禁ノニ在ルナリ

司法省

右ノ場合ニ於テハ原被告人ニ代書師ホハ  
一般ニ言渡シ傍聴人ハ惣テ追ヒ出フ但シ代  
言人ハ歿スナリ年又ハ差科代言人ハ後學ヲ務  
ル  
不都合トハ刑更ニ多ク関スルトナリタトヘ  
ハ毒殺ノ更アルキ衆人聞キ居ルトキハソノ  
毒藥ヲ知り得ルホヨリ害ヲ醸スルナリ  
不都合トハ通語ヲ以テ書タルモノナリソノ  
毒藥ホノ世間ヘヒロマルホヲ防クタメナリ  
トニ依リ凡俗ニ関スルヨリ不都合ノトニ涉  
ルユヘヲ以テ裁判官ニテ陰密ニナスコトア  
リ  
タトヘハ人アリ墮胎ヲナストアリ手術料

ホヲ以テ之レヲ為ス此ホハ凡俗ニ関スル  
トレトモ亦夕餘人ノツノ法方ニ倣フテ恐  
ル、ナリ童モニ不都合ニカ、ルコト多シ  
一體裁判ハ公ケニ為サ、んヘカラサんモノ  
ナリ然ルヲ陰密ニナス之レ變体ナリ故ニ之  
レヲ檢査長又ハ裁判吏務寄相ニ告知スんナ  
リ  
縣裁判所ハ此詔詔ヲ為ストキハ檢査ヨリ檢  
事長ニ告知スルナリ  
オハ十八條 吟味ノ席ニ出ツル者ハ皆帽ヲ脱  
シ裁判所ヲ敬禮シテ静黙シ且總テ裁判所ノ上  
席人ヨリ喧噪ヲ防クベキヲ言渡シタル諸吏  
ハ直ニ之レヲ細密ニ循守スベシ

司法省

裁判所以外ノ地ニテ裁判役又ハ檢査ノ職務ヲ  
行フ場所ニ於テモ亦此規則ヲ通シ用フベシ  
細密トハ正シク循守ス可シト言渡サレタル  
事ヲソノマ、ニ守ル可シト云フマテノ意ナ  
リ  
帽ヲ脱スルトモニテモナラス敬禮シスルノ  
コニテモナラス静黙ニスルナリソノ他偃臥  
又ハ是ヲ出スホノコトアレハ裁判官ニテ使  
吏ニ命シ追出サシム使吏ハ今ハ止メタリ直  
フニヲヨフマシト云フテ得ス直ニ命ヲ  
奉スベシ

後項ノコトハトキ々々裁判官ニテ損害マタ  
ハ死傷ホヲ檢スルタメニ出掛ケルコトアリ

ソノトキノコトヲ言フソノキモ同儀敬禮ヲ尽  
スベシ

オハ十九條 原告被告ノ互ニ弁論スルキ又ハ  
裁判役及ヒ検察官ノ言詞ヲ述フルトキマタハ  
裁判所ノ上席人掛リ裁判役及ヒ檢査問訊譴責  
命令ヲ為ストキ又ハ裁判役ノ言渡ヲナスキニ  
當リ妄ニ言語ヲ発シ又ハ賞賛及ヒ誹謗ヲ為シ  
又ハ如何ナル方法ヲ用ハス喧噪スルモノ使吏  
ノ譴責ヲ受ケ終止メカレハ吟味ノ席ヲ退リ  
ベキコトヲ命ジモシソノ命ニ従ハサルキハ之レ  
ヲ捕ヘテ直十ニ世四時間裁判所附屬ノ獄舎ニ  
繋クベシタハシ獄舎ニライテハ吟味ノ調書ニ  
記シタル裁判所上席人ノ命令書ヲ視タレ上其  
犯人ヲ受取ルベシ

司 法 省

來リ聴クモノタドヒ貴人ニテモ賞賛誹謗ハ  
ヲナストキハ此條ニ言フ如ク裁判官ノ命ヲ  
待タス使吏ヨリ譴責ヲナシ捕止メカレハ云  
々スルナリ

調書ハ即席ニテ書クナリ  
右ノ場合ニ於テハソノ裁判席ハ暫時止ムナ  
リ

此キハ何某ノ云ヒニ付何分時間吟味ヲ停止  
セリト裁判所ノ記録ニキス  
コノ捕ヘラレタルモノハ姓名ヲ言フコト好  
マサルモノ多シソノ姓名ハ知ラズトモソレ  
ナリニ知分スルナリ

キニヨリ弁論中ニ一時ニ惣人ノ喧噪ヲ起ス  
トアリソノ氏ハ惣テ追テ出スナリ暫時ニシ  
テ又門ヲ開キ吟味ヲナスソノ時ハ使吏ニテ  
前キニ喧噪ヲサシタルモノハ入レサル様ニ  
ナレ新タニキタルモノ、ミヲ入ル、ナリ  
才九十條 若シ裁判所ニテ職務ヲ行フモノ其  
喧噪ヲ為シタル氏ハ前条ニ記シタル罰ノ外定  
期ノ時間ソノ職ヲ停メラ九ベシタル、シ初犯ニ  
付テハ其定期三月ニ過クベカラス○ソノ言渡  
ハ前條ノ場合ニホシク假ニ之シテ執行フベシ  
職務ヲ行フ者トハ書記使吏代書師代言人番  
兵ホラ云フ裁判官ハ此中ニ入ラス  
此定期ハ期限ノコトナリ初犯ニケ月ニスリ

司法省

ベカラス再犯以上ハ裁判官ノ見込ニ次才ア  
リ  
通常控訴ノ出来ルモノニテ裁判ニ服マス控  
訴スル氏ハソノ控訴期限マテハ裁判執行ヲ  
駐止シテ置クナリ然レ氏コノ更ハ仮リニ先  
ツ之レヲ執行フナリ  
之ヨリ終審ノ裁判ナレハ此論アルトナシ金  
額ノ定マラサレモノハ惣テ控訴ヲナスコトヲ  
得ルナリ  
才九十一條 裁判役又ハソノ他裁判所ノ官吏  
ニ其職務ヲ行フニ当リ之ニ不敬ヲカヘ又ハ劫  
迫シタル者ハ裁判所ノ上席人及ヒ掛リ裁判役  
又ハ控訴ノ命ニテ之ヲ捕ヘ直ニ裁判所附属

ノ獄舎ニ繫キテ二十四時間ニ吟味ヲ為シ裁判  
所ニテソノ罪犯ヲ証スル視察ヲ視タル上一月  
ニ過キタル時間之ヲ禁錮ノ刑ニ處シ且二十五  
ヲラニクヨリ廿カラス三百ヲラニクヨリ多カ  
ラナル罰金ヲ言渡スベシ  
若レソノ犯人ヲ直チニ捕フルコト能ハサルハ  
ハ裁判所ヨリ廿四時間ニソノモノニ付キ前ニ  
記シタル罰ヲ言渡スベシ但シ其モノ十日内ニ  
自カラ出訴シテ獄舎ニ入ルキハソノ罰ノ言渡  
シニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得ベシ

後項其犯人ヲ直チニ捕フルコト能ハサルハ  
ノ言渡書ハソノモノ、住所ノ知レタルトキ  
ハソノ住所ヘ送達スモレソノモノ、住所ノ

司法省

知レサルキハ裁判所ノ門扉ニ張り去スナリ  
十日内ニ自カラ出訴シテ獄舎ニ入ルキハ故  
障ヲ述フルコトヲ得ルハ代人ニテハ能ハス必  
ラスソノモノ自カラ来リテ入獄スルトキナ  
リ

才九十二條 若レソノ罪施體又ハ加辱ノ刑ニ  
知ス可キモノタルキハソノ犯人ヲ捕ヘテ刑法  
裁判所ニ送り治罪法ニ定メタル規則ニ循ヒ其  
罪ヲ訴ヘ之ヲ罰スベシ

縣裁判所ノ權外ニアル罪人ノ処分ヲ云フ箕  
譯ニハ刑法裁判所ト書イテアレ氏原書ニハ  
權内ノ裁判所ト書イテアリ  
然ルキハ左ノ三ヶ所ノ裁判所ノ内ニテ之レ

ヲ裁判スルナリ

罪ヲ犯ス所口一ツ捕ハレタル所口一ツ所又

ハ住居一ツ惣テ三ツナリ

此三ツハ確内ノ裁判所ナリ

○オ十六章 裁判役ノ評議及ヒ書面ニ因テ吟

味ヲ為ス事

此十六章餘リ入用無之且此所ニテ説クヨリハ

裁判言渡ノ所口ニテ説クベシ

オ十七章 裁判言渡ノ更

オ百十六條 裁判ハ裁判役中可トスルモノ數

多キニ後ヒ即時ニ之ヲ為スベシ然レ裁判役ハ

言渡ヲ為ス前ニソノ會後ノ室ニ退キテ評議ヲ

為シ又ハ後ノ吟味ノ日迄裁判ノ言渡ヲ延ハス

司法省

コヲ得ベシ

通例訴訟難更ニ非サレハ原被告人相答弁シ

檢査ソノ意見ヲ述ヘ然ル後裁判官裁判ヲ言

渡ス之レ手順ナリ

ソノ間ニ故障ノ起ルキハケ様々ト云フ條

々ノ裁判言渡ノ章ノ後ニ出ツルハ錯簡ト云

フヘレ何トナレハ裁判言渡ノ後ニ故障ホノ

アルコトナシ

裁判言渡

裁判言渡ト云フコトヲ説カントス

此語ハ如何様ナルコトノ起ルトモソノ争ヲ決

定セリト云フ字ナリ

裁判官ニテ裁判言渡ス前マテハソノ理非曲

直ヲ考へんモ可ナリト云氏一旦言渡レタル  
上ハ聊カ疑念アルヘカラス又何人ヲ論セス  
ソノ裁判ヲ可否スルヲ能ハサルモノトス之  
レ規則ナリ此章錯簡アリ故ニ其順序ヲ立テ  
、説カントス

裁判ヲ決定スルニ三ヶ条アリ  
才百十六十七十八ノ三ヶ条之レナリ  
裁判官裁判ノコトニ付キ評議ヲ为レ決定ス  
ソノ決定ノミニテハ裁判トハ云ハスタトモ  
隱密ニナレタル吟味ナリトモ言渡レハ公然  
トナスユヘニ言ヒ渡スマテハ裁判トハ云ハ  
ス

司法省

裁判ヲ言渡レタル上ハ之レヲ書付ニ作ラサ  
ルベカラス之レハ書記ニテ为スソノ書付ケ  
ハ負ケタルモノヘ送達セサルベカラスコノ  
作り方ハ大キニ面倒ナル手数ナリ  
才百三十八條ヨリ才百四十八條マテ之レナ  
リ才百十九條ヨリ第百三十七條マテハ裁判  
言渡レニ關係シタル小節目ヲ挙ケタルモノ  
ニテ種々ノコトニ係ル之レハ皆ナ必要ナル  
モノナリ  
才百十七條 裁判役中ソノ説ノ二箇以上ニ分  
ル、中ハ最モ寡數ノ説ノ裁判役多數ノ説ノ裁  
判役中ノ一方ニ合同スベシ然レ德數ノ説ヲ再  
ニ算ヘタルノチニアラサレハ必スシモ合同ス  
ルニ及ハス



オ一ニ裁判言渡ノコヲ言ハン  
原告被告トモ各ソノ意ヲ述ヘ了レハ檢査意  
見ヲ速ク更ニヨリ述ヘサルコトモアリ右了レ  
ハ裁判官ニテ此事件ハ兼リタリト云フ右ノ  
手順済メハ此更件ノ評議ヲナシソノ説ノ多  
キ數ニ決スソノ多キトハ半數ヨリ一人多キ  
ヲ云フ三人ナレハ二人五人ナレハ三人ノ如  
キナリ

仏ニテハ裁判官サナクトモ三人以上ナリ  
成リカケ奇數ニナス六人四人ホノ偶數ニハ  
セス之レハ説ヲ分カツ時ノ方メナリ  
タトヘハ四人ノ裁判官アリテ二人ツ、分カ  
レタルトキハ必ラス上席人ノ方ノ勝ツ

司法省

ニアラス  
裁判官三人ニテ三人トモ連ヒ四人アリテ二  
人ツ、トナルトキハソノセツ分カル、トナ  
ス  
其時ニハ猶外ノ裁判官ヲ呼ヒテ再ヒ吟味ヲ  
仕直ス  
三人ノ内ハ二人ヲ加ヘ五人トナシ四人ノ内  
ハ一人ヲ加ヘ五人トナス  
如シ小村ノ裁判所ニテ外ヨリ呼フ裁判官モ  
ナキトキハ代言人ヲ席順ニ取りテ之レヲ加  
フ  
如シ代言人モナキ所ナレハ代書人ヲ以テ  
之レニ加フ

五人ノ裁判官二人宛合ヒ去人離レ三ツトナ  
リタルキハ亦仕方違フナリ  
其時ハ裁判上席人ニテ猶一應考フベシト云  
暫時ニシテ又其説ヲ聞ケハ其離レタル一人  
ハ一方へ附クトアリ  
或ハ二人ノ者か一方へ附クトモアリ  
イツレ三人ニサヘナレハソレニテ宜レ  
前ノ場合ニ於テ上席人ニテ考ヘヨト云フ再  
考ノ後其説分レ別ニ考ノナキトキハ離レタ  
ル一人ノモノニ何レナリ氏一方へ附クヘレ  
ト云フナリ  
之レハナシク押付ケルヨフナレ氏夫ニテ決  
定スルナリ

司法省

五人ノ氏ハ必ス前ノ如クナスト定マリタル  
ニモアラス聞直ストモアリ  
五人ニテ四ツニ説ノ分カル、トアリ其氏ハ  
一方へ附クヘシト言フト能ハス前キノ一人  
離レタルキハ一方ヲ擇ムトヲ得ルト去氏之  
ハ擇ムトヲ得サレハナリ  
ソノトキハ一人ヲ加ヘテ六人トナス六人以  
上ニ加フルコトヲ得ス何トナレハ縣裁判所  
ハ七人以上ノ裁判官ヲ置クコト能ハサレハ  
ナリ  
コノ百十七条ハ前ニ言フ五人ノ説ノ三ツニ  
分カレタルトキ再ヒ考ヘヨト云フトキノコ  
ナリ

五人ニテ四ツニ分カレタルトキハ一方へ附  
クバシト云フコトヲ得サルナリ之レ説ノ分カ  
レタルモノナリ

再ヒ算へタル云々原語二度ノノ説ヲ聞キ入  
レタルト云フ意ナリ一人一人ノ説ヲ聞クコ  
トナリ

### 原文ノ直譯

然リト雖モソノ合同スルモノ、声カ再ヒ擧  
マレタル後ニアラサレハ合同スルニヨハ  
ス

第一百八条 可トスル者ノ數ト非トスル者ノ  
數ト均シキハ別ニ裁判役一員ヲ呼ビ別ニ裁  
判役アラサルハ裁判役ノ代員ヲ呼ビ又裁判

### 司法省

役ノ代員アラサルトキハソノ裁判所附属ノ代  
言人一員ヲ呼ビ代言人アラサルトキハ代書師  
一員ヲヨビ再ヒ吟味ヲ為スベシタ、シコルラ  
ノモノハソノ任シテ受ケタル順序ニ後ヒ之ヲ  
呼可シ

之レハ順序ヲ云ヒタリ成ル文ケ上等ノ者ヨ  
リ順ニ呼フナリ

再ヒ吟味ヲ為スハ訴訟ノ聽直スコトナリ  
我カ同役ナリトテ必ラス我カ説ヲ在タルコ  
トハナシ

司法省

第十六号

诉讼法讲义卷五

司法省

第六章 裁判役ノ評議書面ニ因テ吟味ヲナス

事自第九十三條至第一百十五條

裁判言渡ノ結局ハ裁判官ノ説多キ方ヲ取ル  
ト前ニ説キタリ

裁判官四人時ハ三人五人ノ時モ三人六人ノ  
時ハ四人ニアラサレハ半数ヨリ多シトセズ  
説ノ分カレタル時ハ他ノ裁判官ヲ呼ヒ或ハ  
代書師代言人ヲモ呼フトアリ  
説ノ三説ニ分カレタル時ハ權威ニテ押付ル  
様ナレモ一人ハ強テ一方ヘ付カサルベカラ  
サルトシモ説キタリ

司法省

若シソノ訴訟ノ難件ナラサル時ハ裁判席上  
ニテ後口ヲ向クカ又ハ單紙へ唇キ付タル等  
ニテ相談ヲナシテ裁決ス

若シ難件ニテ席上決シ難キトキハ評議席へ  
退テ之レヲ議決ス

猶難件ナレハ此次ノ閑席マテ延ハス  
リ時ニヨリテハ翌日言渡ス  
ハ八日目ニ言渡シヲナスナリ

更ニ難件ナレハ裁判官中ノ一人ヲ撰ミソノ  
眼目タル件ヲ掲ケテ啓告セシムル  
ソノ時ハ八日目又ハ十五日ニ言渡スナリ

猶更ニ難件ニテ會計事件ニ関スル等ノ時ハ  
或ハ精算ヲナシ或ハ表ヲ作り終ニ原告被告  
ヨリ書付ケヲ出サシムル  
ケノ吟味ト云フ必ラス三十日位ハカ、ルナ

リ  
裁判席ニテ直ニ言渡シヲナサスシテ翌日八  
日十五日啓告又ハ書付吟味等ノ節ハ評議ニ  
付延引ト云フ

第一ニ啓告ヲナサスシテ延引スルトキハ單  
ナル評議ハ第二ハ啓告評議第三ハ書付吟味  
ノ評議ト三ツニ分ケニアルナリ

第四ノ一ハ第九十三條ニアリ  
第五ノ一ハ第九十五條ニアリ

ソノ餘ノ條ハ期限等ノ一ニテ原告人ハ十五  
日被告人ハ十五日ト云フ類ナリ

十七條  
見合  
候シ書付吟味ヲナス等ハ甚々稀ナルコトナ

司法省

リ  
前ニ説キタル通り言渡サバル間ハ裁判トハ  
言ハス故ニ未タ言渡サ、ル間ハ裁判官ニテ  
説ヲ換ルモ可ナリ  
此第六章ハ必要ノ処ニアラス故ニ置テ説カ  
ス今各付々吟味ノ一ニ及ヒタルユヘ一応其  
概略ヲ話シタリ  
以下條ヲ逐テ説カス更ノ順序ヲ以テ説カン  
トス

第百三十八條 裁判所ノ上席及ヒ書記官ハ言  
渡アル毎ニ直チニ其言渡各ノ正本ヲ記シテ姓  
名ヲ手署スベシ又其言渡各ヲ記シタル聴訟ノ  
簿冊ノ端ニ其裁判言渡ニ出席シタル裁判役及

ヒ檢事ノ姓名ヲ附記シ之レヲ附記シタル部分  
ニモ亦上席人及ヒ書記官ソノ姓名ヲ手署ス可  
シ

裁判ヲ言渡ス片ハソノ裁判ニ関係シタル裁  
判官ハ必ラスソノ席ニ出ツ後令ヒ他ノ事ヲ  
聴キ居ルトモ必ラス列席セサルヲ得ズ

巴里ニテハ裁判官甚々多シ一週間ニ三度裁  
判席ニ出ツソノ他ノ日ハ裁判ノ評議等ニ付  
キ出席セス

一週間ニ三度ト云ヘハ甚々閑ナル様ナレト  
モソノ間不断取調ヘモノアリ閑ニアラス

檢吏モ言渡ニハ必ラス陪席ス其義務ヲ以テ  
意見ヲ述ルヲアリ又裁判官ノ求メヨリ意

司法省

見ヲ述フルヲアリソノ意見ヲ述ヘタル檢吏  
ニテ陪席ス

但シ議評席ヘハ関係セサルナリ  
此條ノ通りニテ一旦言渡シタル上ハ決シテ

過誤ナリヤト云フヲ能ハス原告被告ニテモ  
苦情ヲ言フヲ能ハス尤モ控訴上告等ノ道ハ

アルベシ

右清ミタル上ハ裁判所ノ簿冊ヘソノ上席人  
ト書記官ハ調印ヲナスナリ

右簿冊ノ第一紙ヘ裁判官檢吏並ニ上席人書  
記トモ残ラス姓名ヲ記ス

第百三十九條 若シ書記官前條ニ記シタル如  
ク姓名ノ手署ヲナサ、ル前ニ言渡書ノ写ヲ本



人ニ渡シタル時ハ屢造者ナリトシテ訴訟ヲ受ク可シ

前條上席人書記ニテ簿冊ニ調印スルハ義務ナリツノ調印セサル前ニ書記ニテソノ寫ヲ相手方へ與へタルトキハ偽リノ裁判ナリト云ヒテ訴フルヲ得ル

第百四十條 檢事長及ヒ檢吏ハ毎月言渡書ノ正本ヲ視テ百三十八條ノ規則ヲ行フタルヤ否ヤヲ檢視シ若シ規則ニ付キタルヲアル時ハソノ事ヲ調書ニ記シテ相当ノ処置ヲナスベシ言渡シハ口ニテナスユヘ消ヘルナリ依テ右言渡書ヲ作り永垂不朽変セサルヲ表ス故ニソノ上席人ノ之レニ調印スル大切ナル

司法省

証拠ナリ若シ怠ツテ調印セサルヲナカラシメンタメ毎月檢吏ニテ之レヲ檢阅ス

万一調印ヲナサ、ルヲアルトキハ檢吏ニテ書付ヲ以テ其筋へ訴フツノ時ハ書記ハ職ヲ停メラレ上席人ハ司法卿ノ譴責ヲ受ク

第百四十一條 言渡書ノ寫ニハ裁判役並ニ檢ノ姓名及ヒ代書師ノ姓名原告及ヒ被告ノ姓名職業位所論並趣意変柄中ノ主タルケ條並ニソノ変柄ニ付テノ法律ノ主タルケ條言渡ヲナスノ趣意及ヒ言渡ノ條件ヲ記ス可シ

裁判言渡ノミニニテハ裁判ノ執行ニハナラス其言渡唇ノ副本ヲ以テ執行ス其副本ヲゴロスト云フゴロスハ大ナル義ニテ大唇スルヨ

リ此名ヲ付ケタリ

此ノ副本ニ使吏其執行ヲ命スル書付ヲ添ヘ  
テ相手方ニ送達ス其送達ノ上又ハ後日ソノ  
執行唇ヲ送リタル上ニアラサレハ執行スル  
トヲ得ス

言渡ノミニテ書付ナケレハ負ケタルモノヘ  
執行ノトヲ告ルト能ハス故ニ此ゴロスヲ用  
ユ之レヲ裁判言渡第一ノ唇付ト云フ  
此寫ハ元ヨリ裁判言渡簿冊原書ノ通りニ唇  
付テアルナリ

裁判言渡書ハケ條ト道理トニ夕通り書イテ  
アルナリ

佛ニテ一千七百九十年ノ改革以前ハ裁判言

司法省

渡ニ道理ヲ付クルトハナサ、リシ然ルニソ  
ノ後ハソノ道理ヲ云ハサレハ權外ノトヲ為  
シタルトナル故ヲ以テ必ラス何ノ道理ヲ以  
テ何々申付ケト云フナリ

道理ニハ支柄ノ道理ト法律ノ道理トノ二ツ  
ヲ言渡ス

タトヘハ暴行ノ為メニ契約ヲナシタル許ナ  
レハソノ事柄ヲ吟味シタル上ソノ暴行ニ依  
テ契約ヲナシタルユヘ右ノ契約ハ廢棄スル  
ト言渡ス等又ハ賣買ナレハ何物件ヲ何月何  
日ニ引渡スヘキ所口引渡サ、ルニ付キ云、  
等右ノ道理ニヨツテ何法律ノ何條ニ依テ何  
々ヲ言渡スト云フノ類

詭欺ニヨリテ錯誤シ買フタル物件ヲ更ニ轉  
買シタル物主ヲ争フニ付テ議論アリタリ右  
等ノ如キ法律ニ正條ナキ議論マテモ云ハサ  
ルヲ得サルナリ故ニ時ニヨリ法律ノ議論ヲ  
甚長ク書イテ言渡スルアリ  
時ニヨリテ十数葉モアル言渡唇アリ之レハ  
法律ヲ論シ詰メタル事柄ヲ尽ク唇キ続クル  
ニヘナリ一部ノ書ノ出来タルト思フ位ナリ  
時ニヨリ事柄甚々長クナルトアリ事柄ニヨ  
リ法律ニ寄セテ代言人等ノ言フテアル時ハ  
裁判官ニテ詳カニ法律上ヨリ論破スルトア  
レハナリ

司法省

初告裁判所ニテハ何ニ依テト云フ

控訴廳ニテハ何々ニ考ヘルト云フ右ハ古キ  
習慣ナリ初告裁判所ニテハ何々考ヘルト云  
フヲ得ス  
時ニヨリ法律何ノ條ニヨリ何々ヲ言渡トハ  
カリ云モアリ平坦ナル文ナリ  
タトヘハ不動産取戻シノトニ付テハ此事柄  
ハ何々ノ事柄ニテ何々ノ道理アリ何々ノ條  
ニ依リ不動産ヲ戻シ並ニ作徳トモ取戻スベ  
シト言渡ス  
時ニヨリ不正ノ心ニテ占有シタル場合ニ於  
テハソノ不動産ヲ取戻シ並ニ何年以來ノ作  
徳マテモ取戻スヘシト言渡ス  
アレスクリスシヨシノ期限過キタル訴訟ヲ

許へ出テタル時ハソノ期限ノ過キタルトシテ言  
出サ、ルユヘフノ願ハ立タスト言渡ストア  
リ  
金ヲ借りタル事件ニ付テハソノ元金ニ利分  
ヲ添ヘテ返スベシト言渡ストアリ  
此法律ニ支柄ト道理トハ書イテイフアレモ  
如何ナルヲ支柄ト云ヒ如何ナルヲ道理ト云  
フトハ書イテ之レナシ  
別段ナル事柄ニ付キケ條丈ケニテ言渡スト  
法律中ニ之レアリ通例ノトハ之レナシ  
タトヘハ極貧ノ負訴人アル時ハ裁判所ヨリ  
期限ヲ延ヘルトアリ右等ハ何モ書カサル  
ナリ第百二十二条ヨリ第百二十五条マテナ  
リ

司 法 省

第百二十六條第百二十七條ハ未タ禁錮ノ存  
シアル時ハトナリ右等ハ言渡ノ書キ方アリ  
第百二十八條ハ第二十九條損失ノ償ノトヲ  
云フ  
第百三十條以下費用ヲ拂フト及夫レニ付罰  
スルトヲ云フ  
第百三十五條ヨリ第百三十七條マテハ仮リ  
裁判ヲ執行スル手次ヲ云フ  
右ハ未タ説カス今猶ホ説キカ、リタル裁判  
言渡ノトヲ説キ終リタル上ニ説クヘシ  
第百四十二条 其言渡書ノ写ハ双方互ニ送達  
シタル身元ニ從テ之レヲ記スベシ故ニ双方出

席ノ上ノ裁判言渡書ノ寫ヲ得ント欲スルモノ  
双方ノ姓名職業住所双方論辨ノ趣意更柄中ノ  
主タルケ條及ヒ其更柄ニ付テノ法律の主タル  
ケ條ヲ記シタル身元唇ノ正本ヲ裁判所ニ持出  
シ且其寫ヲ相手方ノ代唇師ニ送達スベシ  
第百四十三條 其身元書ノ正本ハ吟味ノ席ニ  
出ル使吏二十四時間預リ置クヘシ  
第百四十四條 相手方ノ代書師身元書ニ付故  
障ヲ述ヘント欲スル時ハ之レヲ使吏ニ述ヘ使  
吏ソノ旨ヲ記シ置クベシ  
第百四十五條 一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代  
書師ニ招唇ヲ送達シテ之レヲ呼出シタル上裁  
判所ノ上席人ハ前條ニ記シタル故障ノ申述ヲ

司 法 省

裁決ス可シ若シ上席へ其時差支アルニ於テ裁  
判役中ニテ最モ先ニ任ヲ受ケタルモノ之レヲ  
裁決スベシ

既ニ裁判言渡ニ道理ヲ付クルト道理ヲ付ケ  
サルノニ々通りヲ説キタリ  
然ルニ道理トケ條トハカリニテ不分明ナル  
ユヘ訴訟ノ顛末ヲ残ラス書キ續クヘシ  
ソノ上ニハ身元唇ヲ加ヘサルヘカラスソノ  
訴訟ノ役目ト云フ意ナリ  
タトヘハ劇場ニテ誰々ハ何誰レノ役ヲナシ  
タルト云フ如シ  
役目ト云フハ原告被告身元ノ更ナリ原告人  
ハソノ身元ヲ誰レノ妻トカ弟トカ委シク書

ク  
被告人モ同様ナリ尤モ住所職業ヲモ書ク  
相手方ノ願ヒタルトテ辨論シタルトテモ書  
ク

裁判所ニ於テ事柄ト道理ヲ云フハ勿論ナレ  
トモ原告被告ヨリモソノ事柄ト道理トテ簡  
略ニ言ハサルヲ得サルナリ

代書師ノ姓名ハ必ラス書クヘシ  
何某ノ代書師ノ何某何々ヲ申立タリ何某ノ  
代書師ハ何々ト弁シタルヲモ看ク

裁判言渡書ノミニテハ不足ナリソノ上ニ原  
告被告ノ身元書ヲ依リ使吏ヲ以テ一方ノモ  
ノへ送達シソノ身元ヲ取調ヘルトアリ若シ

司法省

書違ヒアル時ハ廿四時間ニ相手方ニソノ旨  
ヲ申送クルナリ

ソノ身元ヲ造カニセサルヘカラサルトハ相  
続人等ニタトヘハ親ノ財産高丈ケノ相続人  
相続ノ財産高ニ至ルマテソレニ付キタル負  
債ヲ拂フ契約アル者アリ又ハ通例ノ相続人  
相続ノ財産高ニ限ラスソレニ付キタル負債  
ヲ總テ松フモノアリ故ニソノ身元ヲ取調ヘ  
サルヘカラサルナリ

又三事ヲ願ヒタルニソノ内一ト事ヲ削リ不  
都合アルトキハ別段願ヒテソノ言渡書ヲ改  
メテ貰フトアリ

更ニヨリ裁判席ニテ願ハスニ置テ言渡看ヘ

願ハサルトシ足サシムルトアリ  
右ノ通り願ヒタルトテ削リ願ハサルトテ足  
ス等ニ於テハレチトシビルヘ取消ヲ願フ  
トアリ之レハ甚不都合ナルトナリ  
裁判言渡シタル後ニ或ハ足シ或ハ削ルトナ  
トノ輒スク出来ルモノナリ  
身元ノトテ相手方ニ引合フニ身元ノ違フト  
キハ使吏ヘソノトテ申出テ裁判上席人ヘ其  
身元ノ改正ヲ乞フトアリ  
第百四十二條ヨリ第百四十五條マテハ今迄  
説キタル件々ナリ  
佛ニテ裁判言渡シノ濟ミタル後原告被告ヨ  
リ書記官ヘソノ寫ヲ乞フトキタトヘハ三ツ

司法省

ノトテ願ヒタルヲ一度ヲ削リ二度ニナシテ  
モラフトアリ又二事ヲ願ヒタルヲ三事ニナ  
シテモラフトアリ之レ言渡ハ口上ニテ言渡  
シ書記ニテ書付ヲ作ルユヘ右等ノトテアリ右  
ハ原告被告中詭欺ニテナストモアリ又ハ錯  
誤ニテナストモアリ書記ニ於テハ申立ヲ書  
クモノニテ權ノナキモ大ユヘ佛國ニテハ右  
等ノ間違ヒヲ生スル弊アリ  
裁判言渡ノトニ付犹委シク説カン  
裁判言渡ハ原告被告ヨリ申立タルトニ從ツ  
テ言渡スモノナリ  
ソノ申立ニ依テ黑白ヲ付クルハ裁判官ノ職  
ナリ

言渡ハ口上ニテ事柄ト道理トヲツ、リケ様  
ミトト言渡スノミ原被ノ申立タルトハ言ハ  
スソノ時原告被告ヨリ出シタル書付ケハ一  
且下ケルナリソノ後書付ニナストキハ原告  
被告ノ申立タルトヲ盡ク書クナリ  
右ノ通り後ニ書付ケヲ作ルユヘ原被ヨリ三  
支ヲ一更ニ申立ルトモ書記ニテ辨別付カズ  
故ニ間違トナルナリ  
タトヘハ貸金ニ付元利ノ二更ヲ願ヒタルニ  
後ニ言渡唇ヲ書クトキ利金ノ方ヲ削ツテ元  
金ノミノ一事トナス時ハ一方ヨリ非常ノ道  
ヲ以テ取消ヲ願フト出来ルナリ  
一更ヲ願ヒタルニ二事ヲ書クトアリ之レモ

司 法 省

前ノ手次ヲ以テ仕直スト出来ルナリ、  
此更ハ餘程不思議ノトナリ悪キ更ハ後ニ言  
ハシ原告人ノトヲ違ヘタルトモ被告人ノト  
ヲ違ヘタルモ一方ヨリ直ストヲ願フハ同シ  
トナリ

問 裁判席ニテ原被ニテ申立ヲナスニ神ニ誓

ヒテ後申立ツルヤ

答 誓ヲナストナシ

問 英ニハ誓アリ佛ニテハナキヤ

答 佛ニテハナシ英ニテハ旧習ニヨリテアル

コトモアリ

問 申立ヲ書記ニテ書キ取ルヤ

答 書キ取ルトナシ



問 裁判官ニテ原被ノ申立ヲ以テソノ理非ヲ  
弁別シテ裁判ヲナスニ後ニ至リ原被ニテ  
左様ノコトハ言ハスト言ヒタラハ如何ス  
ルヤ

代書師ニテ見込ミヲ付ケ始末書ヲ出ス故ニ  
裁判席ニテハ原被代書ヨリ何事ヲ云フトモ  
聊カ関係スルコトナシ

民事ノ訴訟ニ於テ本人ノ出席スルコトハ殆ン  
ト之レナシ双方ノ代書師ニテ問答スルノミ  
稀レニ本人ヲ呼ヒ出スコトアリソノ時ハソノ  
口上ヲ書クナリ

代書師ハ見込ミヲ付ケルマテニテ代理人之  
レヲ論弁スルナリソノ代理人ニテ不足ト思  
司法省

フトキハ裁判官ノ見込ニヨリ本人ヲ呼出ス  
コトアリソノ時ハソノ申立ヲ看クナリ

裁判官へ出ス書付ケノ残ルモノハ此書付ケ  
ノミナリ代理人ナシニ本人ノ出席スルモソ  
ノ口上ハ書付ニシテ残サス裁判官ノ見込ヲ  
以テ別段ニ呼ヒ出ス時ハソノ口上ヲ書キ留  
メニナシ残ルナリ

問 代書師ニテ見込ヲ立タルニ付代理人ニテ  
之レヲ弁論シタル後裁判言渡トナリタル  
トキ代理人ニテ左様ナコトハ云ハスト云ヒ  
タルトキハ如何スルヤ

答 代言人ノ言ヒタルコトニ付キ裁判ニテ君ハ  
此事ヲ言ヒタルヤト問フコトハ絶テナシ故

ニ 代理人モ私ハ言ハスト言フナキナリ  
代理人ハ言ヒサヘスレハ夫レマテナリ  
間違ヒノ出ツルハ代唇師ニアリ

問 元ヨリ代理人ノ言フナキ其時ニテ消ユル  
ナラハ書類ニテ済ムヘシ  
代理人ヲ用ユル  
ハ何ノ為リヤ

答 何月何日ノ期限ヲ過キタルニ付キ又ハ云  
々ニ付キ返糸ヲ責ムル等惣テ書面ニテ分  
明ナレモ書面ニテハ充分セサルニ付ソノ  
書面ヲ叙キアカス為メニ代理人ヲ用ユル  
ナリ

問 違フ唇キ替ユルナラハ無キ者ナレモ時ニヨ  
リアルナリ

司法省

問 言渡唇ノ写ヲ乞ヒニ出ツル人ハ誰レナル

答 代唇師ナリ本人ハ決シテ出ズ右ニ付キ代  
唇師ニテ失錯又ハ故造ニテ間違ヒノ出ツ  
ルナリ

司  
法  
省

第十七号

訴訟法會議筆記

七年七月五日

司法部

七年七月五日

裁判ヲ言渡スルハ必ラス訴訟ヲ為スモノ即  
千代書師ヨリ概略ノ見込書ヲ出ス  
ソノ双方ノ代書師見込書ノ大意ニヨリ裁判  
ヲ言ヒ渡ス必ラス道理ト変カラトノ譯ヲ言  
フ  
裁判言渡ニハ必ラス変柄ヲ諒ム代書師見込  
書ヲモ諒ム  
右ニ付ケ様々々ナルニ付キ何ノ道理ヲ以テ  
何ニ言渡スト云フナリ  
何ノ某ト何ノ某カ訟ヲナシタルトソノ姓名  
ヲ言フ其姓名ヲ言ハサレハ其変柄ハカリヲ  
言ヒテモ着落セサルナリ

司法省

依シ其身元ハ後見人ナリヤ又ハ何ナリヤハ  
言ス  
其「カリテ」ハ後ニ記入スルナリ  
言渡ノ後書付ケテ作ル時ニ加ヘサルヲ得サ  
ル「ハ」其訴訟ノ顛末并ニ訴訟ノ「」ニ付キ不  
意ニ起ルコトヲモ職業住所ヲモ其事柄ノ道  
理法律ノ道理ヲモ書キ加ヘサルヘカラス  
代書師ノ見込書ハ原被双方互ニ送達シタル  
モノナレハ双方共何レモ同様ニ記セサルヘ  
カラス  
其書付ケテ作ルニハ書記ニテ預カリテ作ル  
ソノ作りテモラフモノハ裁判ノ満足シタル  
モノヨリ頼ムナリ其片言立テタル等ノ顛末

ヲ残りナリ認メ代書師ヨリ先方へ君カ言立  
タル所口ハ此通り相違ナカルヘシト言ヒ遣  
ハス

若シ一方ノモノニテ不兼知ノコトアルトキ夕  
トヘハ相続人ノコトアラハ一ト通りニ相続  
スルモノアリ親ノ財産丈ケノ相続スルモノ  
アリ財産丈ケノ相続人ヘ一ト通りノ相続人  
ノ如ク書イテ遣ハストキソノモノハ財産丈  
ノ外我カ財産ヘモ関スルコトアルユヘ迷惑ス  
ルナリソノトキハソノモノアリ二十四時間  
ニ使吏ヲ経テソノ身元ノ書連ヒテ裁決ノ上  
書直シテモラフナリ

司法省

右等ノ如キコトアルユヘ過日モ危フキコトア  
ルト言ヒタリ

右ノ如ク願ハサルコトヲ書加ヘルコトモア  
リ又願ヒタルコトヲモ書キ入レサルコトアリ  
始審ナラハ控訴スヘシト虫氏終審ナレハ扱  
ナクレケトトシビルヘ出ツ

之レ止ムヲ得サルノ片ナリ成リ丈ケハ控訴  
スヘシ

右ニ付テハ二十四時間ニ故障ヲ述フルコト  
ヲ得ルユヘ憂クルニ足ラスト言フモノアル  
ヘシト虫氏万一二十四時ノ間ニ注意セスレ  
テ其時間ヲ過キナハ丈キナル害ヲ生ス思ル  
可キナリ

如シ府縣裁判ノ終審又ハ控訴廳ノ裁判ナラ

ハ致方ナシ

ソノトキ一方ノモノハ願ハルコトヲ書加ヘ  
ラレ一方ノモノハ願ヒタルヲ落サレタル  
等ニテ双方トモ不平ヲ懷ク等ノキハ止ム  
ヲ得スレケトシビルヘ出ツルヨリ外ナシ  
右等ノ間違アルコトナラハ何ノ方ニ惣テ  
ノ書類ヲ書記官ヘ渡カ、ルヤト云フセツア  
リ  
タトヒソノ書類ヲ惣テ渡シタルトモ騰写ノ  
過ナシト云フヘカラスソノ過ナシ依テ賦  
産丈ケノ相續ヲ一通リノ相續トナス等ニ  
テ人民ノ迷惑トナルトキハソノ罰ナカルヘ  
カラス書記ニ責メノ歸スルコト甚夕重クシ

司法省

ト堪ヘサルニ至ルヘシ故ニ寧口人民各自ニ  
我カ変ヲ為ス方可然トノ説ニ因テ目下ノ如  
ク立テ、アリ書記ノ責メヲ輕クセント欲セ  
ハソノ書付ケノ出来タルモノヲ三日間ニ来  
リテ一閱セヨト云フソノ来リ閱スルト否ラ  
サルトハ原告被告ノ勝手次第ナリ右ノ如ク  
スレハ書記ノ責メ輕キノミナラス原被ノ責  
メモ輕クナルヘシ

才百四十一条此依ニテ存スル方ヨロシ  
才百四十二条ヲ改メテ

言渡書ハ諸書類ニ循ヒ書記ニテ作り原告被  
告ノ代書人ハソノ書付ヲ見留ルヲ為メニ三日  
間ニ来リ見ルヘシ若シ三日間ニ来リ見サレ

ハ右ニ付テノ故障ハ消滅ス若レソノ故障アル  
ルハ裁判官之レヲ裁決ス

此ノ如クスルハ才百四十一條ヨリ才百四  
十五條迄テハ不用ナリ

一説アリ其書付ケハ書記ニ任せステ裁判  
官ニテカス方ヨロシト云フ

然レトモ裁判官裁判席ニテソノ書付ケヲ作  
ルコトニセハ數多ノ書類ニ<sup>統</sup>緒ナク且ツ事務

多端ノ際ニライヲ甚タ時間ヲ消費スルナリ  
エヘニ裁判官ハソノ訴訟ノ眼目ヲ領畧スル

ノ三一々諸書類ヲ讀ムコト能ハス候シ夫切  
リニテ捨置クハソノ訴訟ノ顛末ヲ失フニ

至ル故ニソノ書キ付ケヲ作ル之レヲ作ルハ  
司法省

ハ委シク書カサルヲ得ス  
因テ書記ニテ之ヲ作り原被告人三日間ニ來

見ル規則ニスルトキハ代書師ノ手數ヲ減ス  
ルエヘ從ツテ其謝金モ亦タ減ス其減シタル

金ヲ以テ書記ニ増ス方ヨロシ  
才百廿八條中ノ正本トハ何ナルヤ

裁判所ノ書記局ニ殘ルモノナリ  
聴訟ノ簿冊トハ何ナルヤ

即席ニ言渡スコトナラハ一二葉ナリ入りク  
ニタルコト柄ナルトキハ八日過キテ言渡ス

ソノトキハ數十葉モアリ一ノ簿冊ヲナスソ  
ノ場合ニライテハ言渡書ノ書キ付ケヲ以テ

誦ニ聞カス



ソノ簿冊ハ豫カシメ出来テアルニアラスソ  
ノユト柄ニヨリ二三葉ヨリ數十百葉ニモイ  
タル之レヲ訂装シテ夫レ々ノ簿冊トナスナ  
リ

才百三十七條ハ正本モ簿冊モ言渡シタル丈  
ケヲ書クナリ

才百四十二條ノ言渡書ハ言渡シノ済ミタル  
後ニ作ルナリ身元等ハ前キニハ書キ入レス

此条ノ場合ニテ書キ入レルナリ間違ヒハ此  
氏ニ出来ルナリ

才百四十三條ニ云フ所口ノ裁判言渡書トハ  
代書師ノ州案ナリ

司法省

一ヶ年間ノ裁判表ヲ作り一般ニ布告スル方  
ヨロシ

此変ハ刑事ニ付テハ甚肝要ナリ  
右ノ表ニヨリ内国人ト外國人ト比較シテ外  
国人ニテ刑変ノ多数ナルトキハソノ政府ノ  
代人即チ公使へ申越シ注意セシムルヲモ出  
來ルナリ

第百四十六條 裁判言渡書ノ写ノ首尾ニハ仏

蘭西共和政治五国才十二年「プロレ」ル月ノ憲法  
ヲ以テ定メタル所ノ文詞ヲ記スベシ之ヲ裁  
判言渡

ル渡定或如ノ文執詞ト云フ命ス

仏ニテ裁判言渡ヲナスニ上席人ノ名ヲ以テ  
スルコトナシ王国ノトキハ王ノ名皇帝ノト  
キハ皇帝ノ名今ハ仏国人民ノ名ヲ以テス

裁判官ハ政府ノ代理ナリユヘニ政府ノ名目ヲ以テス

尤モ行政官ノ裁判言渡ハセシク違フ  
國議院ニテ裁判ス

例ヘハ仏國帝ニ依テ裁判スルト云フナリ帝自カラ裁判スルト云フ意ナリ

之レ裁判官ノ帝ノ名代ヲ以テ裁判スルモノト違フナリ

目今ハ帝ナシ故ニ人民自カラ裁判スルト云  
帝ノキハ一人ノ政府ナリ故ニ其名ヲ以テ裁  
判スルナリ

目今ハ無形ノ政府ナリ故ニ國議院ニテ裁判  
スルモ裁判所ニテ裁判スルモ同シ文ナリ

司法省

帝ノ節ハ裁判官ハ帝ノ名代ナリ行政裁判ハ  
親裁ナリ

目今ハ行政司法トモ人民ナリ  
此條ノ大意ハ裁判官ノ名ヲ以テ裁判セサレ

迄ノコヲ云フナリ  
行政官吏タル地方官ハ布告等ヲナスニ自分

ノ名ヲ以テス  
裁判官ハ自分ノ名ヲ以テスルコト能ハス之レ

代理ナレハナリ  
裁判官ハ自分ノ名ヲ以テセストモソノ官ヲ

輕クスルコトニテハ之レナシ何トナレハ裁  
判ハ帝自カラ裁判セサレヘカラスト垂氏手

ノ届カサレユヘ代理ヲ命スルモノナレハ十

第四百四十七條 總テ裁判所ノ言渡書ノ寫ハ之ヲ相手方ノ代書師ニ送達シタル上ニ非レハ其言渡ノ如ク執行フ可カラズ若シ此規則ニ背ク時ハ其言渡ノ効ナカルベシ又假ノ言渡ト確定ノ言渡トヲ問ハス相手方ノ負訴訟トナル言渡書ノ寫ハ相手方ノ代書師ノ三非ニス亦其本人又ハ其住所ニ之ヲ送達スベシ但シ其寫ニ代書師ニハ別ニ同上ノ寫ヲ送達シタル旨ヲ附記ス可シ

第四百四十八條 代書師既ニ死去シ又ハ其職務ヲ行フヘキヲ止メシ時ハ本人ニ言渡書ノ寫ヲ送達シタルトヲ以テ足レリトス然レ其寫ニハ

司法省

代書師ノ死去シタルト又ハ其職務ヲ止メルルトヲ記スベシ

本文ニソノ關係ノ代書師アルトキハソノ言渡書ノ寫ヲ送達スルトアレトモ欠缺裁判ノトキハ被告人ノ方ニ代書師アルコトトシ言ワタシ書ノ寫ヲ送達スルコト能ハス書付ケヲ言渡シタルハカリニテハ執行ヲ為スコトヲ得ス必ス代書師へ送達ス  
仮ノ言渡ト云フ之レ迄其例ヲ説カスト覺フ  
今之レヲ説カン

假ノ言渡トハタトハハ夫婦別居ノトヲ訴フトキ訴訟中假リニ言渡サ、ルヘカラサルトアリ先ツ別居中ノ食料ノトヲ言渡スホ之レ

ナリ

賣買ノコトニ付テ訴訟トナルソノ品其マ、ニ  
置クトキハ廢敗スル品ホハ直千ニ攸リノ言  
渡ラテサ、ルヘカラス靴帽又ハ菓子ホ直千  
ニ朽敗スルモノ等ハ攸リノ言ヒワタシヲ以  
テ賣却シソノ代金ハ官ニテ預カルナリ  
仏ニテハコンシナリシヨント云ヒテ大蔵持  
千ニテ右ノ金ヲ預カル所口アリ日本ニテモ  
早ク右ヲ設ケヘキナリ  
巴里スニテハ大蔵持千ナリ縣ニテハ大蔵ヨ  
リ出張スル租税ノウケ取役ニテ之レヲ兼ス  
之レ良法ナリ若シ此設ケナケレハ裁判済ミ  
シマテ其傍ニ捨置カサルヲ得ス然ルキハ其

司法省

品尽ク朽敗シテ用ヲナサス徒ラニ多少ノ損  
害ヲ生スベシ

仏ニテハソノ預カリ所口ニテ幾分ノ利息ヲ  
出ス

又シキニ堪ユル品モノハ品ニテ預カリ朽敗  
スル品物ハ賣テ金トナシ預カル

官ノ貸シ蔵モアリ其官主人ハ預リ品ニ損敗  
ホノコトアレハ責アリ

確定ノ言渡トハ終審ノコトヲ云フニアラス裁  
判所丈ケノ確定ナリ

相手方ノ負訴訟トナル云々トハ負訴訟  
ノモノヘ裁判入費ノ出セト言渡サレタルハ  
即チ罰ナリ原被告等分ノ理アルトキハ入費ヲ

出スノ罰ナレソノトキハ代書師ニ送達スル  
ノミニテ足レリソノ本人へ送達スルニ及ハ  
ス

負訴訟ト頁ノ字ヲ下レタルハ譯ノ誤リナリ  
罰文アルト改ムヘシハ誤ニ裁判文ノ費ヲナリ罰文アルハ何々密ニ借スル

書記ヨリ出ス寫ハ一通ナリ之レハ勝方ノ手  
ニ入ルソノ書キ付ケテ使吏ニテ寫シ一通ヲ  
代書師へ送達シ又一通ヲソノ本人へ送タツ  
ス

被告人連帯シタルトキソノ支柄ノ同シキト  
キ一通ニテ足ルト虽氏連帯セサル支柄ニシ  
テ罰ヲ受クヘキモノ十人アレハ十通ヲ寫シ

司法省

テ送達ス

夕トヘハ人ニ百円ヲ借シタリト訴フルニソ  
ノ人先キニ返レタル証アルトキハ其訴訟ハ  
取揚スト言渡ス之レ確定ノ裁判言渡ナリ故  
ニ確定ノ裁判ニテモ罰ナキトアリ此類之レ  
ナリ

右ノ場合ニライテソノ返レタル金ノ受取書  
ヲ被告人ヨリ初メニ出スヘキラ出サスカレ  
コレ混シタル上ニテ其証書ヲ出スキハ原告  
人ハ罰ヲ受ケス尤モ被告人ニテモ罰ヲ受ケ  
ス其費用ハ両持チナリ

親族相訟フル入費ハ勝者負者氏自分ノ費文  
ケハ自カラ払フトス尤モ後才ヨリ出タル

從弟迄六級ノ親ナリ  
代書人既ニ死スルハ書付ケノ寫ヲ送達セ  
ス  
代書人退職又ハ死シタルハ一方へ送達ス  
ルノ三候ニ退職又ハ死シタルヲ記ス

司法省

訴訟法會議筆記

七年七月十日

司法部

第百十九條 裁判所ヨリ原告及ヒ被告ニ其代  
書人ヲ出サス自カラ出席スベキトテ言渡ス時  
ハ其出席スヘキ日ヲ言渡書ニ記ス可シオテ記  
章ニ記  
スル所ト

一般訴訟ヲナスモノ、本人自カラ裁判所へ  
出ルトナシテ代書人ニテ其概略ヲ統括シタル  
始末書ヲ以テ申立猶委レキトハ代書人ニテ  
演舌スルトナリ

若シ裁判官ニテ本人ヲ呼ハサルヲ得サル見  
込ノ片ハ書付ヲ以テソノ本人ヲ呼ヒ出スナ  
リ  
夫婦ノ財産ヲ分ツ支ノ夫婦別居ノ事

司法省

此ノニツハ必ラス裁判官ノ見込ヲ以テ本人  
ヲ呼出スナリ之ヲシユジマシムレバト  
アール判言備渡裁ト云フ

本條ハ右等ノ時ニ適當ス  
然レ氏本文ノ通りニテハアシ、依テ本文ヲ  
改メテ若シ裁判官ニテ双方ノモノ、出席ヲ  
必要ト思量スルトキハ裁判官書付ヲ以テ言  
渡シ云ヒト書セサルヘカラス

第八十五條 本人自カラ拒カント欲セハ自  
カラ出ルモ苦シカラスト云フモノトハ異ナ  
リ

本條ハ裁判官ノ見込ヲ以テ出席ヲ命スルモ  
ナリ



八十五條ニ於テハ代書人ノ言立タルトテ自  
分ニテ代書人ヲ用ヒス出席シテ弁論スルト  
ニテ其弁論ハ記録スルトテ本條ハ双方ト  
モ十人アレハ十人ヲ呼ビ出シソノ口上ヲ書  
記ニテ記録スルナリ

本人ヲ呼出ス場合ニ於テハ假令裁判官ニテ  
一方ノ事柄ハ分リタルトモ一方ノ事柄分カ  
ラサレハ必ラス雙方共呼出スナリ裁判官ニ  
申立ヲ監察ス

確定ノ裁判本訴案ノヲナス前ニ三ツノ裁判言  
渡アリ

一ニハ預備ノ裁判ヨユジマンフレハハラトアル  
二ニハ假リノ裁判ヨユジマンブロミスハール

司法省

三ニハ預審裁判ヨユシマンアンテローポトハール

此三件ヲ立テタルハ甚都合宜シキナリ  
預備ノ裁判ノミニテハ控訴ヲナストテ得ス  
假リノ裁判ト預審ノ裁判ヲナシタル上ハ控  
訴ヲナストテ得ル

何ノ方メニ預備ノ裁判ノミニテ控訴ヲナス  
トテ得サレトナレハ其時マテハ事柄ヲ一通  
リ聞キタルハカリニテ一方ノモノへ害ノ生  
スルトハ未タ分カラサレハナリ

仮リノ裁判預審裁判ニ至リテハ既ニ一方ノ  
モノ害ヲ受クルニ至ル之レソノ控訴ヲ許ス  
所以ナリ

右等ハ控訴ノ條ニ委シク記載スル所ナリ

此次第百廿條即予預審裁判ノトナリ

第百二十條 誓ヲ為スヘキノ言渡書ニハ如何

ナル事件ニ付キソノ誓ヲ為スヘキヤヲ記ス可

シ

元來仏ニテハ証拠ナキ訴訟ハ取場ケス候シ

其時ハ誓ヲササレメ之レヲ取場裁判スルト

アリ

誓ニニツノ場合アリ一ツハ一方ノ者ヨリ一

方ノ相手方へ誓ヲ立テシムルナリ一ツハ裁

判官ヨリ之レヲササレムルトアリ

誓ノトハ民法証據ノ條七條百五十二ニ詳カト

リ此ノ誓ヲ申付ルハ即予預審裁判ニテ預備

ノ裁判ハ此ノ預審裁判中ニ含ミアルナリ

司法省

何トナレハ其隻柄ヲ審理スルニハ預備ヨリ

起ラサルヲ得サレハナリ

候シ誓ヲ立テス氏亘シキモノニ裁判官ニテ

之ヲ立テシムルトアル時ハ一方ノモノハ害

ヲ生スル故控訴ヲナスヲ得ル

第百二十一條

此條ハ此ノ知ニアル可カラサルモノナリ之

レ誓ヲナスノ手續ナリ

原來民法ニ於テ此等ハ証拠トナレ此等ハ証

據ニナラスト法律ノ根源ヲ定メアリ訴訟

法ニハソノ法律ヲトリ扱フ手續ヲ記サイセ

リ

第百九十三條以下六條本條ニ類スル取扱ノ

トアリ其次ニ之ヲ置クヘシ

餘論

問 預審ノ裁判ハ控訴スルヲ廢セリトノ説ヲ  
聞ケリ如何

答 預審裁判ニ於テ控訴ヲ許サ、レハ大害アリ  
何トナレハ一旦預審ニテ定マリタル証  
控ハ即チ確定裁判ノ根元トナル故ニ確定  
ノ裁判以前ニ之ヲ防カサルヲ得ス若シ之  
ヲ防カサル時ハ其者大ニ害ヲ受クルニ至  
レハナリ

預審裁判ノ控訴ハ亘シカラストメ論ハアル  
ヘシト孟氏ソレヲ云ハ、訴訟法一部總テ後  
論ヤキニアラストヘハコ、ニ兵器アリ曰

司法省

之レ人ヲ殺サン之レ毀ツヘシト云フカ如シ  
ソノ僅々ノ害ヲ以テ一部ノ訴訟法ヲ誹議セ  
ハ何ソ一人ヲ殺スヲ以テ天下ノ兵器ヲ廢セ  
シトスルニ異ナランヤ

佛ニテ目下預審裁判ノ控訴ヲ許ス第四百七  
十三條見合ス可シ

尤モ時ニヨリ間違ニテ預備ノ裁判ヲ控訴ス  
ルトアリ其時ハ其裁判所ノ裁判官ニテ取扱  
ケサルナリ

代書人ハ法律ヲ知ルモノナリト孟氏時トシ  
テ右等ノ間違ナキト能ハス裁判官ニ於テハ  
容易ニ此クノ如キ間違アルトナシ

法律ニ裁判官ニテトリ揚クヘキコト、取扱

ク可カラサルトトハ記載セスト至氏ソレ等  
ハ裁判官ノ見込ニ任スル故法律ニ場クルニ  
及ハス

又人權ニテモ物權ニテモソノ訴訟ヲ裁判官  
ニテ兼知スルト否カラストコレ亦タソノ見  
コミニアル故ニ之レヲ法律ニカ、ゲサレナ  
リ

第百廿二條 裁判所ヨリ裁判言渡ヲ執行フニ  
付キ猶豫ノ期限ヲ許ストラ得ベキ場合ニ於テ  
ハ其言渡書ヲ以テ其猶豫ヲ許ス可シ但シソノ  
言ニ渡シ書ニハ猶豫ヲ許スノ趣意ヲ附記ス可  
シ

此條ハ從タル裁判言渡ノトヲ云フタトヘハ  
司法省

家債ヲ拂ハサルノ訴訟ハ即チ主タル訴訟ナ  
リ又其家債ヲ払ハサルニ付償ヲ許フトアル  
可シ之レ即チ從タル訴訟ナリ本條ハ其事ヲ  
云フナリ

又タトヘハ本訴訟千円ノ金ヲ返スヘキ言渡  
ヲ為スニ貧窮ナルモノナルトキハ裁判官ノ  
見込ヲ以テソノ払ヒ期限ヲ延ハレ本條ノ手  
続ヲ以テ之レヲ言渡ス之レ從タル裁判ナリ  
民法才千二百四十四條ニ猶豫ノ期限ヲ許ス  
法律根原アリ此條ニ於テハ其取扱ノ手續ヲ  
云フナリ

一旦言渡シタル裁判ハ決レテ後ヨリ増減ス  
ルヲ得サル原則ナルニ付主タル裁判ヲ言渡

シタル翌日ニナリテハ其後タル延期ノ言渡  
ヲ為ス<sub>ト</sub>ヲ得ス故ニ其主タル裁判言渡ト同  
時ニ猶預ノ期限ヲ言渡ス可シ主タル後裁判言  
裁判言渡<sub>トナリ</sub>

第百二十三條 其猶預ノ期限ハ原告被告双方  
ノ者出席ノ上ニテ裁判ヲ言渡シタル時ハ其言  
渡ノ日ヨリ之ヲ算ヘ又一方ノ者出席ヲ為サス  
シテ言渡シタル日ハ其言渡書ヲ送達シタル日  
ヨリ之ヲ算フ可シ

此條於預ノ期限ヲ起算スル定メノ三十ナリ  
第百二十四條 第百二十五條 第百二十六  
條此三條ハ法律ノ根原ニテ訴訟法中ニ置ク  
ヘキモノニ非ス民法第千二百四十四條ノ次

司法省

ニ置クヘキモノナリ  
第百廿二條第百廿三條ハ期限ノ<sub>ト</sub>ヲ説キタ  
ルモノナリ百廿四條以下三條ハ期限ヲ許ス  
ト許サ<sub>ハ</sub>ル<sub>ト</sub>ノ<sub>ト</sub>ヲ説キタルモノナリ  
第百廿六條ニ格段ノ場合ニ於テ人ヲ拘留シ  
テ負債ヲ取立ル<sub>ト</sub>アリ然レ氏コレハ千八百  
六十七年既ニ之ヲ廢シタリ  
尤モ今日モ拘留シテ取立ルモノ

○罰金 ○輕重罪ニ付損害ノ償 ○刑笞ニ  
關スル裁判入費ナリ  
其廢シタルモノハ

○民事 ○商事 ○行政 ○外國人ナリ  
外國ノ<sub>ト</sub>ニ付テハ一ツノ例アリ

英ヨリ佛ニ来ルモノアリ之レ有名ノ携帶人  
ナリ海石ヲ箱ニ入レ金ナリト見セ掛ケテ拂  
ノ有名ノ旅店ニ宿スソノ店僕ニ相當ノ金ヲ  
典ヘテ曰ク之レ英國ノ美金ナリ大切ニ保護  
ヲ頼ムト云フソノ上種々ノ品物ヲ買入ル  
ヲ頼ニ其代價ハ旅店ヘ代償セシメソノ品物  
ヲ受取り爾後何方ヘ行ヒタルカ知レサルニ  
付其箱ヲ開キ見ルニ全ク海石ナリ依テ始テ  
其携帶人ナルヲ知レトモ之ヲ罰スルニ由ナ  
シ外國旅人ハナキモノヲアリトスル類多ク  
又飲食ホニ付テモ十円ノモノヲ食ヒ一円ヨ  
リ外所持セサルトモ澤山アリ因テ外國人ハ  
之ヲ拘留スルトモ其銓ナレ故ニ其拘留ハ廢

司法省

シタルナリ

第二百二十七條 裁判役ハ前條ノ場合ニ於テ禁  
錮<sup>拘留</sup>ヲ<sup>留</sup>言渡ノ如ク執行フ<sup>ト</sup>ヲ已レノ定メ  
タル時間猶預ス可キノ言渡ヲ為ス<sup>ト</sup>ヲ得ヘレ  
但シ其猶預ノ時間ノ後ニ至リテハ再ヒ言渡ヲ  
為ス<sup>ト</sup>ナリ直キニ之ヲ禁錮ス可シ其猶預ハ許  
訟ノ裁判言渡書ヲ以テ之ヲ許スヘクシテ其言  
渡書ニ猶預ヲ許スノ趣意ヲ記ス可シ

此條ハ許訟法ノモノナリ  
前條ニ言フ如ク千八百六十七年七月廿六日  
ノ法律ニ因テ政府ニ入ル刑事裁判入費ノ<sup>ト</sup>  
ニ付テハ拘留スル<sup>ト</sup>ヲ廢シタリ其後千八百  
七十一年十二月廿三日ノ法律ニ於テ復タ之

レヲ拘留スルト定メタリ

今日負債ノ為メニ拘留スルトテ廢スル時ハ  
前日拘留セラレタルモノハ盡ク免サ、ルヲ  
得ス之レニ及レテ今日ヨリ拘留ヲナストニ  
定メタルキハ今日マテ拘留セラレサルモノ  
ハ皆テ拘留ス可シ

主タル法律ハタトモ改正ストモ既往ニ及ホ  
スト能ハス此ニ説ク所ハ負債取立テノ取扱  
ヒニ付テノ從タル法律ナリ故ニ其法律ノ改  
正トナリタルキハ既往ニ及ホスナリ

第百二十八條 一方ノ者ヨリ其相手方ニ償額  
ヲ払フ可キノ言渡書ハ其額ヲ定メテ之レヲ附  
記ス可シ又ハ相手方ケ條書ヲ以テソノ額ヲ定

司法省

ムヘキヲ附記スルモ亦可ナリ

時ニヨリ裁判言渡シニ償ヲ言渡ストアリ其  
時ハ金額ヲ何百何十円ト定メテ出サ、ルヲ  
得ス

時ニヨリ裁判官ニテソノ額ヲ定ムルト能ハ  
サルトアリタトヘハ家ヲ受負ヒテ期限淹滞  
スル等ニ付其金額ヲ計ルト甚ク難シ之レ等  
ハ一日ニ付何程ト定ムルヨリ外ナシ  
タトヘハ家ヲ建ルニ幾分カノ損害ヲ受クル  
トアルキハ裁判官ニテ定ムルト能ハス鑑定  
人ニテ之レヲ定メレム

或ハ高買品ノ損害ニ付テハ其惣額ヲ定ムル  
ト難シ依テ一石ニ付何程一行ニ付何程ト定

ムヘキトヲ云フナリ

第百廿九條 土地ノ収納物ヲ償還ス可キ言渡  
書ハ最終ノ一年ニ付テハ物品ノ終ヲ以テ之ヲ  
償還ス可ク其前年ニ付テハ本年ノ豊凶ト其収  
納物ノ通價トニ注意シ且其最近ノ地ノ市場ノ  
數年間價書ニ從テ其價ヲ償フ可キトヲ附記シ  
若シ其價書ノアラサル時ハ評價人ノ説ニ循ヒ  
之ヲ償フ可キトヲ記ス可シ○若シ最終ノ年ノ  
收納物ヲ其終ニテ償還スルト雖ハサル時ハ前  
年ノ如ク價ヲ以テ之ヲ償フ可シ

此條ノ旨意ハ人ノ土地ヲ占有スルトニ付テ  
其作徳ヲ取立ルトヲ説ク

占有ニ不正ノ心アルモノアリ不正ノ心ナキ  
モノアリ

司法省

不正ノ占有ニ付テハ其土地ノ所有者願出タ  
ルヨリ五年前ノ收納ヲ取立ツルヲ得ルナリ  
不正ニアラサル占有ニ付テハ願ヒタル後ノ  
收納丈ヲ取立ツルトナリ

本條ニ記シタル如ク最終ノ一年ナレハソノ  
現品ヲ以テ取立テ其以前ノ分ナレハ其年ノ  
ノ相場ニ循ヒ金ヲ以テ取立ルナリ

最終ノ一年トハ昨年ノトナリ原書ニハ昨年  
トアリ占有ノト及ヒ其期限ノトハ民法ニ原  
律アリ

本條○以下本年ノ訴訟ニ付テ昨年ノ收納單  
物ナレハ賣リテ金トナサ、ルヲ得ス故ニ金



高ヲ以テ取立テ現品ヲ取立ツルヲ得ス  
第百三十條 然テ負訴訟ノ者ハ裁判ノ費用ヲ  
払フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

此條ヨリ第百三十三條迄ハ裁判費用ノコトヲ  
云フ

此條ハ其原則ナリ

訴訟ヲナスニハ原告人最初ソノ入費ヲ仮リ  
ニ出シ置クナリソノ入費ハ負ケタルモノハ  
否メニカ、リタルモノ故其負タル者ニ罰ト  
シテ其入費ヲ払ハシムル譯ナリ

時ニヨリ代書師ニテ原告人ヨリ其入費ヲ最  
初ニ受取置カスレテ訴訟ノ終リタル後ニ之  
ヲ受取ルコトアリソノ時ハ代書人負ケタル者

司法省

ヨリ直ニ受取ルヲ得ルナリ

裁判官ハ何々ノ入費ヲ出ス可シト言渡マテ  
ナリ其現物取扱ヲ云フ

裁判言渡書等ノ入費ハ書記ニテ受取ル尤モ  
之レハ價ノ高キモノナルコトハ前キニソノ價  
ヲ出サレム

使吏ハ其廉ニ相對ニテ假リニ訴訟人ヨリ其  
入費ヲ預カリ置クナリ

其人ヲ知ラサル時ハ必ラス前キニ其入費ヲ  
預カルナリ然ラサレハ時ニヨリ負タルモノ  
逃亡スルコトアリ

代言人ハ價ヲ定メ取ルコト能ハス保シテ切カニ  
取ルモノアリ

代言人ノ謝金ハ十五ヲランクト表ニ見ヘタ  
リト雖モ其金實ハ代書師ニテ之ヲ取ルナリ  
裁判官管轄地内ニ出張ノ旅費ハ政府ノ入費  
トナル何トナレハ其裁判官ヨリ更ニ聰明ナ  
ル裁判官アラハ出張セストモ分カルモ知ル  
可カラサレハナリ

書記ノ出張ハ必ス裁判官ニ隨行スルト故ニ  
裁判官ノ入費ト同シク政府ノ入費トナル  
使吏ノ出張ハ全ク訴訟人ノ頼ニカ、ル故ニ  
負訴訟人ノ入費トナル

本條ノ書法ニテハ裁判費用ヲ払フヘキ願ヲ  
ナサ、ルニ裁判所ノ方ヨリ言渡ス様ニ聞ユ  
レ氏原來願ヒタルエヘニ言渡サ、ルモノニ

司法省

テ願ハサ、ルモノニ裁判所ノ方ヨリ言渡スニ  
ハアラサルナリ

右入費ノ、ハ代書人ヨリ出ス書付ニ負ケタ  
ルモノニ入費ヲ出ス、トヲ言渡サ、レ度旨ヲ記  
載シアル、トナリ

前段ノ如ク負ケタルモノノ入費ヲ払フ、ト原則  
ナレ、氏其内ニ二ツノ取除ケアリ

負ケタルモノノ入費ヲ払フ、トヲ言渡サ、レ勝  
手タルモノノ入費ヲ払フ、トヲ言渡サ、ル之レ  
一ツノ取除ナリ

親ヰクノ訴訟ハ勝マケトモ、ソノ費用ヲ双方  
ヘ分ケテ出サ、シム之レ亦、夕一ツノトリ除ケ  
ナリ

負ケ方勝チカタ双方トモ入費ヲ払フ場合ハ  
双方トモニ一トカドツ、勝チタルトモキハ双  
方ノ入費ヲ合セ之レヲ平分シテ双方ヨリ払  
フコトアリマタソノ一部或ハ錢部ヲ払フコ  
トアリ

佛ニテ親族間ノ訴訟ニ三万フランクノ負  
ケトナリソノ入費八千フランクアリソノ入  
費ヲ三万フランクノ内へ組ミ込マントセシ  
カ行ハレス因テ之レヲ分ツテ出スコトナリ  
タリ

分ツトハ双方我カ費ヤシタル丈ケテ銘々償  
フコトナリ  
マタ我カ入費ヲ償ヒタル上相手方ノ入費莫  
ク

司 法 省

大ナルトキソノイク部分ヲ払フコトモア  
リ  
又全ク双方ノ入費ヲ通算シテ平分ニ払フコ  
トモアリ

親族ノ下此條ニテハ兄弟マテヲ去ヘリ然レ  
氏通例六級迄ニ及フナリ  
入費ノ差別ハ裁判官ニテ見込ヲ付ケテ言渡  
ナリ

親族間ノ裁判入費ヲ銘々ニ払ハシムル所以  
ハ既ニ其訴訟ヲナスハ不和ナリシカルニ一  
方マケトナリ更ラニソノ入費ヲ出サシ  
ムルコトニテハサラニ不和ヲカサヌル  
ヲ以テコノ法ヲ立テタルナリ

司法省